

COSMETIC COMPOSITION

特許公報番号 JP2001081037 (A)

公報発行日 2001-03-27

発明者: NISHIBE YUKINAGA; NABA YOSHIHIKO

出願人 ICHIMARU PHARCOS INC

分類:

— 国際: A61K8/96; A61K8/00; A61K8/97; A61K36/18; A61K36/75; A61P17/00; A61Q1/00;
A61Q1/12; A61Q5/00; A61Q5/02; A61Q5/12; A61Q7/00; A61Q17/04; A61Q19/00;
A61Q19/10; A61K8/96; A61K8/00; A61K36/18; A61K36/185; A61P17/00; A61Q1/00;
A61Q1/12; A61Q5/00; A61Q5/02; A61Q5/12; A61Q7/00; A61Q17/04; A61Q19/00;
A61Q19/10; (IPC1-7): A61K7/06; A61K35/76; A61K7/00; A61P17/00

— 欧州:

出願番号 JP19990256373 19990909

優先権主張番号: JP19990256373 19990909

要約 JP 2001081037 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain an antiallergic agent excellent in prophylaxis and amelioration of troubles in the skin/scalp such as allergic dermatitis disease and atopic dermatitis or the rough dry skin, and useful for highly safe medicaments, cosmetics, etc., by including a specific plant extract.

SOLUTION: This agent comprises at least one kind of extracts from plants selected from the group consisting of (A) cacao, (B) cassia bark and (C.) aurantii nobilis pericarpium. The component A is preferably obtained from cacao seeds, the component B is preferably obtained from the bark, root bark and/or root of Cinnamomum. Cassia and the component C is preferably obtained from the maturation pericarp of Citrus unshiu.; The above extract can be utilized as it is as an antiallergic agent and also can be included in a cosmetic composition preferably in a content of usually ≥ 0.001 wt %, especially 0.2-20 wt %. The extract is preferably obtained by squeezing various parts of various plant bodies as they are or after being crushed, or by extracting with a solvent various parts of various plant bodies as they are or after being crushed.

esp@cenet データベースから供給されたデータ — Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-81037

(P2001-81037A)

(43) 公開日 平成13年 3 月27日 (2001. 3. 27)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームコード* (参考)
A 6 1 K 35/78		A 6 1 K 35/78	C 4 C 0 8 3
7/00		7/00	K 4 C 0 8 8
7/48		7/48	K
			W
審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 26 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願平11-256373

(22) 出願日 平成11年 9 月 9 日 (1999. 9. 9)

(71) 出願人 000119472

一丸ファルコス株式会社

岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1

(72) 発明者 西部 幸修

岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1

一丸ファルコス株式会社内

(72) 発明者 那波 慶彦

岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1

一丸ファルコス株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 化粧品組成物

(57) 【要約】

【課題】新規で安全な化粧品組成物を提供することを課題とする。

【解決手段】カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有する抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧品組成物を提供するものである。

【効果】抗アレルギー作用、ヒスタミン遊離抑制作用、抗捕体活性作用、アラキドン酸代謝活性抑制作用、接触皮膚炎抑制作用を有し、又、皮膚炎症疾患（例えば、発赤、湿疹、浮腫、腫脹など）や、アトピー性皮膚炎、肌荒れなどに対して有効なものである。尚、その他一般的な飲食品類への利用も可能である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有することを特徴とする抗アレルギー剤。

【請求項2】カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有することを特徴とするヒスタミン遊離抑制剤。

【請求項3】カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有することを特徴とするアラキドン酸代謝活性抑制剤。

【請求項4】カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有することを特徴とする接触皮膚炎抑制剤。

【請求項5】請求項第1項から第4項記載の抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤の内、何れか1種以上を含有することを特徴とする化粧料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有する抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧料組成物への応用に関するものである。

【0002】その利用分野は、例えば、各種の外用製剤類（動物用に使用する製剤も含む）全般において利用でき、具体的には、アンプル、カプセル、丸剤、錠剤、粉末、顆粒、固形、液体、ゲル又は気泡の1)医薬品類、2)医薬部外品類、3)局所用又は全身用の皮膚用化粧品類（例えば、化粧水、乳液、クリーム、軟膏、ローション、オイル、パックなどの基礎化粧料、洗顔料や皮膚洗浄料、マッサージ用剤、クレンジング用剤、除毛剤、脱毛剤、髭剃り処理料、アフターシェーブローション、ブレスローション、シェービングクリームなど）、4)頭皮・頭髮に適用する薬用又は/及び化粧用の製剤類（例えば、シャンプー剤、リンス剤、トリートメント剤、パーマメント液、染毛料、整髪料、ヘアートニック剤、育毛・養毛料など）、5)浴湯に投じて使用する浴用剤、6)その他、腋臭防止剤や消臭剤、防臭剤、衛生用品、衛生綿、ウェットティッシュ、口中清涼剤（例えば、歯磨き、マウスウォッシュなど）などが挙げられる。

【0003】

【従来の技術】今日、最近の環境条件の悪化や生活様式の変化、社会生活の複雑化に伴うストレスの増加などにより、花粉症・アレルギー性鼻炎・気管支喘息・アトピー性皮膚炎・薬物による蕁麻疹などのアレルギー性疾患や、肌荒れ、乾燥肌などに悩み苦しむ人が増加している。特に、アトピー性皮膚炎は子供のみならず、成人に及ぶまでの広い年代層でその増加が叫ばれ、現代病のひとつとして注目されている。

【0004】本来、生体には、体内に侵入した異物（細菌、花粉、ダニなど：抗原）を排除するために、それに対抗する生体成分（抗体、リンパ球など）を産生して体を守るように働く免疫機能を備えている。ところが、時としてその反応が過敏になるために身体に有害となり、種々の病気の原因となってしまうことがある。この免疫機能による障害反応をアレルギーと呼んでおり、4つの型に分類されている。

【0005】免疫系を構成する中心的細胞は、主に骨髄、胸腺、脾臓、リンパ節、血液などに存在するB細胞、T細胞と呼ばれる2種類のリンパ球の集団である。B細胞は体液性免疫（I～III型アレルギー）に関与し、抗原に反応して形質細胞（抗体産生細胞）に分化、増殖し、抗体を細胞外に分泌するようになる。又、T細胞は主に細胞性免疫（IV型アレルギー）に関与し、抗原と反応すると、分化、増殖し、抗原を破壊する活性化T細胞になる。

【0006】I型アレルギー反応は、最も発症頻度が多い型であり、主に免疫グロブリンE（IgE）抗体が関与している。その発症過程は、外来性の抗原に対してB細胞からIgE抗体が産生され、肥満細胞や好塩基球にIgE抗体が固着し感作が成立する第1段階、抗原が再び接触した感作細胞からヒスタミン、セロトニン、SRSAなどの化学伝達物質が遊離する第2段階、遊離した化学伝達物質が平滑筋の収縮、血管透過性の亢進、浮腫、神経刺激などを引き起こしたりして、各種のアレルギー症状を発現する第3段階に大別される。

【0007】II型アレルギー反応はIgGやIgM抗体によって組織の細胞が破壊されて起こる障害反応である。抗体が抗原細胞に結合すると、補体系（抗体のエフェクター作用によって活性化して、抗原の細胞を殺したり、貪食細胞による抗原の分解を著しく促進したりする血清タンパク質の系）が連鎖的に活性化され、細胞膜を破壊する複合体が形成されるために、細胞が破壊される。又、活性化された補体系の成分が細胞に結合すると、多形核白血球やマクロファージなどの貪食細胞によって抗原細胞は捕捉されて分解し、除去される。一方、補体系の活性化の過程で、貪食細胞による抗原の分解を著しく促進する作用を有するアナフィラトキシンと呼ばれる物質が生じる。これは毛細血管の透過性を増大させる作用、平滑筋を収縮させる作用、肥満細胞からヒスタミンを遊離させる作用も持っているため、過剰に生成されると各種のアレルギー症状が発現することとなる。

【0008】III型アレルギー反応は主にIgG抗体によって起こるが、その発症は補体系や多形核白血球などの多くの因子が関与する複雑な機構で起こる。抗原に抗体が結合して生成した抗原抗体複合物は血管、腎臓、関節、皮膚などの組織に沈着して補体系を活性化する。複合物の量が多いときには、補体系が過度に活性化してアナフィラトキシンが生じ、そのために血管透過性が増大した

りして炎症が起こる。又、アナフィラトキシンの作用で貪食細胞が抗原抗体結合物を除去しようと働く際に、リソソームの脱顆粒反応が起こり、リソソーム内のプロテアーゼなど多種類の加水分解酵素が細胞外に放出されるため、組織や細胞の障害が進み、III型アレルギーが発症する。

【0009】I~III型アレルギー反応がいずれも体液性免疫による反応で、抗原と接触後2~3分で反応が現れ、十数分で反応が最高となるため、即時型と呼ばれるのに対し、IV型アレルギー反応は数時間後に現れ、最高に達するには48~72時間かかることから、遅延型アレルギーと呼ばれる。このアレルギー反応は細胞性免疫による反応で、T細胞の一部が抗原と反応して活性化T細胞となり、これが再び抗原と反応すると、リンホカインと呼ばれる種々の炎症性因子(マクロファージ走化性因子、リンパ球遊走因子、マクロファージ活性化因子、血管透過性因子など)を放出する。これらにより抗原を排除するように働くが、この反応が過度に進行すると障害反応としてアレルギーが発症する。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】従来より使用されている抗アレルギー剤の多くは、作用点が比較的明らかなI型アレルギー反応によって引き起こされる疾患に対する薬剤である。例えば、平滑筋を弛緩させる鎮痙薬や毛細血管の透過性の亢進を抑制する交感神経興奮薬、さらには抗ヒスタミン薬などが挙げられるが、これらはいずれも第3段階に作用する対照的治療薬であり、しかも、そのほとんどが合成医薬品であり、副作用の点で問題があった。

【0011】一方、現在最も活発に行われているI型アレルギー疾患に関する抗アレルギー剤の研究は、化学伝達物質の遊離を抑制する薬剤、遊離された化学伝達物質に対して拮抗作用を示す薬剤など、第2段階を抑制する薬剤の開発であるが、十分な効力を有するものは見つかっておらず、又、II、III型及びIV型アレルギー反応に対する特異的な抗アレルギー剤も見出されていないのが現状である。

【0012】

【課題を解決するための手段】このような事情に鑑み、本発明者らは、抗アレルギー作用に優れ、かつ副作用がなく、皮膚に緩和である物質について、天然物である植物からのスクリーニングを試みた。その結果、カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物に、ヒスタミン遊離抑制作用、アラキドン酸の代謝活性抑制作用、接触皮膚炎抑制作用を有することを見出し、又、これらを含有してなるアレルギー性の皮膚炎症疾患(例えば、発赤、浮腫、湿疹、腫脹など)や、アトピー性皮膚炎、あるいは肌荒れといった皮膚・頭皮のトラブルの予防や改善に優れ、安全性の高い化粧料組成物を提供することをもって、本発明を完成するに至った。

【0013】

【発明の実施の形態】尚、本発明で使用する「カカオ(ココア、カカオノキ)」とは、アオギリ科(*Sterculiaceae*)、カカオ属(*Theobroma* L.)の植物：カカオ(*Theobroma cacao* L.)の種子を用いる。

【0014】「ケイヒ：桂皮」とは、クスノキ科(*Lauraceae*)、クスノキ属(*Cinnamomum* Schaeff.)の植物：シンナモム・カシヤ(*Cinnamomum cassia* Blume)の樹皮、根皮、根を用いるが、その他、同属植物のニッケイ(*Cinnamomum sieboldii* Meisn.)、ヤブニッケイ(*Cinnamomum japonicum* Sieb. ex Nakai)などを用いることもできる。

【0015】「チンピ：陳皮」とは、ミカン科(*Rutaceae*)、ミカン属(*Citrus*)の植物：ウンシュウミカン(*Citrus unshiu* Marcov.)の成熟果皮を用いるが、その他近縁植物(*Rutaceae*)の成熟した果皮を用いることができる。

【0016】

【発明の実施の形態】本発明で使用するカカオ、ケイヒ、チンピの抽出物とは、各々の植物体の各種部位(種子、樹皮、根皮、根、果皮など)をそのまま或いは粉碎後搾取したもの。又は、そのまま或いは粉碎後、溶媒で抽出したものである。

【0017】植物抽出物の抽出溶媒としては、水、アルコール類(例えば、メタノール、無水エタノール、エタノールなどの低級アルコール、或いはプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなどの多価アルコール)、アセトンなどのケトン類、エチルエーテル、ジオキサン、アセトニトリル、酢酸エチルエステルなどのエステル類、キシレン、ベンゼン、クロロホルムなどの有機溶媒を、単独或いは2種類以上を任意に組み合わせ使用することができ、又、各々の溶媒抽出物が組み合わされた状態でも使用できる。

【0018】尚、製造方法は特に制限されるものはないが、通常、常温、常圧下での溶媒の沸点の範囲であれば良く、抽出後は濾過又はイオン交換樹脂を用い、吸着・脱色・精製して溶液状、ペースト状、ゲル状、粉末状とすれば良い。更に多くの場合は、そのままの状態を利用できるが、必要ならば、その効果に影響のない範囲で更に脱臭、脱色などの精製処理を加えても良く、脱臭・脱色などの精製処理手段としては、活性炭カラムなどを用いれば良く、抽出物質により一般的に適用される通常的手段を任意に選択して行えば良い。

【0019】又、カカオ、ケイヒ、チンピの各種植物抽出物は応用する抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧料組成物の剤型・形態により乾燥、濃縮、或いは希釈などを任意に行い調整すれば良い。

【0020】本発明のカカオ、ケイヒ、チンピの各植物抽出物は、そのまま抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑

制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤として利用できる他、化粧品組成物へ含有できるが、その含有量は特に規定されるものではなく、抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤、化粧品組成物の剤型の種類、品質、期待される作用の程度によって若干異なり、通常、0.001重量%以上（以下、重量%で表わす）好ましくは0.2~20%が良い。尚、含有量が0.001%より少ないと効果が充分期待できない。

【0021】尚、本発明の抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧品組成物は、前記の必須物質に加え必要に応じ、本発明の効果を損なわない範囲内で、下記に例示する成分や添加剤を任意に選択・併用して製造することができる。

【0022】(1)各種油脂類

アボガド油、アーモンド油、ウイキョウ油、エゴマ油、オリーブ油、オレンジ油、オレンジラファール油、ゴマ油、カカオ脂、カミツレ油、カロット油、キューカンバー油、牛脂脂肪酸、ククイナツツ油、サフラワー油、シア脂、液状シア脂、大豆油、ツバキ油、トウモロコシ油、ナタネ油、パーシク油、ヒマシ油、綿実油、落花生油、タートル油、ミンク油、卵黄油、パーム油、パーム核油、モクロウ、ヤシ油、牛脂、豚脂又はこれら油脂類の水素添加物（硬化油等）など。

【0023】(2)ロウ類

ミツロウ、カルナバロウ、鯨ロウ、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、カンデリラロウ、モンタンロウ、セラックロウ、ライスワックス、スクワレン、スクワラン、プリスタンなど。

【0024】(3)鉱物油

流動パラフィン、ワセリン、パラフィン、オゾケライド、セレシン、マイクロクリスタンワックスなど。

【0025】(4)脂肪酸類

ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ペヘン酸、オレイン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、ウンデシレン酸、トール油、ラノリン脂肪酸などの天然脂肪酸、イソノナン酸、カブロン酸、2-エチルブタン酸、イソペンタン酸、2-メチルペンタン酸、2-エチルヘキサン酸、イソペンタン酸などの合成脂肪酸。

【0026】(5)アルコール類

エタノール、イソプロパノール、ラウリルアルコール、セタノール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール、ラノリンアルコール、コレステロール、フィトステロールなどの天然アルコール、2-ヘキシルデカノール、イソステアリルアルコール、2-オクチルドデカノールなどの合成アルコール。

【0027】(6)多価アルコール類

酸化エチレン、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、エチレングリコールモ

ノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ポリエチレングリコール、酸化プロピレン、プロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン、ペンタエリトリール、ソルビトール、マンニトールなど。

【0028】(7)エステル類

ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸オレイル、オレイン酸デシル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、フタル酸ジエチル、フタル酸ジブチル、酢酸ラノリン、モノステアリン酸エチレングリコール、モノステアリン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸プロピレングリコールなど。

【0029】(8)金属セッケン類

ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸カルシウム、パルミチン酸亜鉛、ミリスチン酸マグネシウム、ラウリン酸亜鉛、ウンデシレン酸亜鉛など。

【0030】(9)ガム質、糖類又は水溶性高分子化合物
アラビアゴム、ベンゾインゴム、ダンマルゴム、グアヤク脂、アイルランド苔、カラヤゴム、トラガントゴム、キャロブゴム、クインシード、寒天、カゼイン、乳糖、果糖、ショ糖又はそのエステル、トレハロース又はその誘導体、デキストリン、ゼラチン、ペクチン、デンプン、カラギーナン、カルボキシメチルキチン又はキトサン、エチレンオキサイドなどのアルキレン(C2~C4)オキサイドが付加されたヒドロキシアシル(C2~C4)キチン又はキトサン、低分子キチン又はキトサン、キトサン塩、硫酸化キチン又はキトサン、リン酸化キチン又はキトサン、アルギン酸又はその塩、ヒアルロン酸又はその塩、コンドロイチン硫酸又はその塩、ヘパリン、エチルセルロース、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシエチルセルロース、カルボキシエチルセルロースナトリウム、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ニトロセルロース、結晶セルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルピロリドン、ポリビニルメタアクリレート、ポリアクリル酸塩、ポリエチレンオキサイドやポリプロピレンオキサイドなどのポリアルキレンオキサイド又はその架橋重合体、カルボキシビニルポリマー、ポリエチレンイミンなど。

【0031】(10)界面活性剤

アニオン界面活性剤（アルキルカルボン酸塩、アルキルスルホン酸塩、アルキル硫酸エステル塩、アルキルリン酸エステル塩）、カチオン界面活性剤（アルキルアミン塩、アルキル四級アンモニウム塩）、両性界面活性剤：

カルボン酸型両性界面活性剤（アミノ型、ベタイン型）、硫酸エステル型両性界面活性剤、スルホン酸型両性界面活性剤、リン酸エステル型両性界面活性剤、非イオン界面活性剤（エーテル型非イオン界面活性剤、エーテルエステル型非イオン界面活性剤、エステル型非イオン界面活性剤、ブロックポリマー型非イオン界面活性剤、含窒素型非イオン界面活性剤）、その他の界面活性剤（天然界面活性剤、タンパク質加水分解物の誘導体、高分子界面活性剤、チタン・ケイ素を含む界面活性剤、フッ化炭素系界面活性剤）など。

【0032】(11)各種ビタミン類

ビタミンA群：レチノール、レチナール（ビタミンA1）、デヒドロレチナール（ビタミンA2）、カロチン、リコピン（プロビタミンA）、ビタミンB群：チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩（ビタミンB1）、リボフラビン（ビタミンB2）、ピリドキシン（ビタミンB6）、シアノコバラミン（ビタミンB12）、葉酸類、ニコチン酸類、パントテン酸類、ピオチン類、コリン、イノシトール類、ビタミンC群：ビタミンC酸又はその誘導体、ビタミンD群：エルゴカルシフェロール（ビタミンD2）、コレカルシフェロール（ビタミンD3）、ジヒドロタキステロール、ビタミンE群：ビタミンE又はその誘導体、ユビキノノール類、ビタミンK群：フィトナジオン（ビタミンK1）、メナキノノール（ビタミンK2）、メナジオン（ビタミンK3）、メナジオール（ビタミンK4）、その他、必須脂肪酸（ビタミンF）、カルニチン、フェルラ酸、 γ -オリザノール、オロト酸、ビタミンP類（ルチン、エリオシトリン、ヘスペリジン）、ビタミンUなど。

【0033】(12)各種アミノ酸類

バリン、ロイシン、イソロイシン、トレオニン、メチオニン、フェニルアラニン、トリプトファン、リジン、グリシン、アラニン、アスパラギン、グルタミン、セリン、システイン、シスチン、チロシン、プロリン、ヒドロキシプロリン、アスパラギン酸、グルタミン酸、ヒドロキシリジン、アルギニン、オルニチン、ヒスチジンなどや、それらの硫酸塩、リン酸塩、硝酸塩、クエン酸塩、或いはピロリドンカルボン酸のごときアミノ酸誘導体など。

【0034】(13)植物又は動物系原料由来の種々の添加物

これらは、添加しようとする製品種別、形態に応じて常法的に行われる加工（例えば、粉碎、製粉、洗浄、加水分解、醗酵、精製、圧搾、抽出、分画、ろ過、乾燥、粉末化、造粒、溶解、滅菌、pH調整、脱臭、脱色などを任意に選択、組合わせた処理）を行い、各種の素材から任意に選択して供すれば良い。

【0035】尚、抽出に用いる溶媒については、供する製品の使用目的、種類、或いは後に行う加工処理等を考慮した上で選択すれば良いが、通常では、水、水溶性有

機溶媒（例えば、エタノール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなど）の中から選ばれる1種もしくは2種以上の混液を用いるのが望ましい。但し、用途により有機溶媒の含有が好ましくない場合においては、水のみを使用したり、あるいは抽出後に除去しやすいエタノールを採用し、単独又は水との任意の混液で用いたりすれば良く、又、搾取抽出したもので良い。

【0036】尚、植物又は動物系原料由来の添加物を、全身用又は局所用の外用剤、化粧品類に供する場合、皮膚や頭髮の保護をはじめ、保湿、感触・風合いの改善、柔軟性の付与、刺激の緩和、芳香によるストレスの緩和、細胞賦活（細胞老化防止）、炎症の抑制、肌質・髪質の改善、肌荒れ防止及びその改善、発毛、育毛、脱毛防止、光沢の付与、清浄効果、疲労の緩和、血流促進、温浴効果などの美容的効果のほか、香付け、消臭、増粘、防腐、緩衝などの効果も期待できる。

【0037】原料とする具体的な植物(生薬)としては、例えば、アーモンド(へん桃)、アイ(藍葉)、アオカズラ(清風藤)、アオキ(青木)、アオギリ又はケナシアオギリ(梧桐)、アオツヅラフジ(木防已)、アカシア、アカショウマ(赤升麻)、アカスグリ「果実」、アカブドウ、アカミノキ(ログウッド)、アカメガシワ(赤芽柏)、アカネ(茜草根)、アカヤジオウ又はジオウ(地黄)、アギ(阿魏)、アキカラマツ、アキニレ(榔榆皮)、アゲアヘ(オオミテングヤシ)、アケビ(木通)、アサ(麻子仁)、マルバアサガオ又はアサガオ(牽牛子)、アジサイ(紫陽花)、アシタバ(明日葉)、アズキ(赤小豆)、アセロラ、アセンヤク(阿仙葉)、アチラ(ショクヨウカンナ)、アニス、アベマキ「果実」、アボカド、アマ、アマチャ(甘茶)、アマチャヅル、アマドコロ(玉竹)、アマナ(光慈姑)、アマランサス(ヒユ、ハゲイトウ、ヒモゲイトウ、センニンコク、スギモリゲイトウ、ホソアオゲイトウ、アオゲイトウ、ハリビユ、アマラントウス・ヒボコンドリアクス)、アミガサユリ又はバイモ(貝母)、アルカナ(アルカンナ)、アルガローボ(キャベ)、アルテア、アルニカ、アルピニア又はカツマダイ(ソウズク)、アロエ(蘆薈)、アロエベラ、アンジェリカ、アンズ又はホンアンズ(杏仁)、アンソッコウ(安息香)、イガコウゾリナ(地胆頭)、イカリソウ又はヤチマタイカリソウ(インヨウカク)、イグサ(灯心草)、イタドリ(虎杖根)、イチイ(一位)、イチゴ、イチジク(無花果「果実、葉」)、イチハツ(一初)、イチビ(冬葵子)、イチヤクソウ(一葉草)、イチョウ(銀杏「種子、葉」)、イトヒメハギ(遠志)、イナゴマメ、イヌナズナ(テイレキシ)、イヌビユ(ホナガイヌビユ)、イネ「種子、種皮」、イノンド「種子」、イブキジャコウソウ、イラクサ、イランイラン、イワタバコ(岩菫)、イワヒバ又はイワマツ(巻柏)、ウーロン茶、ウイキョウ(茴香)、ウィート(チブサノキ)、ウキヤガラ(三稜)、ウグイスカグラ「果実」、ヒメウイキョウ、ウコン(鬱金)、ウキクサ(浮萍)、ウスバサイシン又

はケイリンサイシン又はオウシュウサイシン(細辛)、ウスベニアオイ、ウスベニタチアオイ、ウツボグサ(夏枯草)、ウド又はシシウド(羌活、独活、唐独活)、ウニャデガト(ウンカリア、キャツクロー)、ウバ茶、ウメ(烏梅「種子、果肉」)、ウラジログシ、ウワウルシ(クサコケモモ)、エストラゴン、エゾウコギ(蝦夷五加)、エチナシ(ホソバムラサキバレンギク)、エニシダ、エノキタケ(榎茸)、エビスグサ又はカシヤ・トーラ(決明子)、エルカンブレ、エルダーベリー「果実」、エレミ、エリンギ又はプレロータスエリンジ、エンジュ(槐花、槐花米)、オウギ又はキバナオウギ(黄耆)、オウレン(黄連)、オオカラスウリ(カロコン)、オオグルマ(土木香)、オオツヅラフジ(防己)、オオバコ(車前子、車前草)、オオハシバミ(榛子)、オオバナオケラ又はオケラ(白朮)、オオバナサルズベリ(バナバ)、オオバヤシャブシ「果実」、オオミサンザシ又はサンザシ(山査子)、オウセイ(ナルコユリ、カギクマバナルコユリ)、オウヒササノユキ又はササノユキ、オオムギ(大麦)、オオホシグサ(穀精草)、オカ、オカゼリ(蛇床子)、オグルマ(旋覆)、オクラ「果実」、オタネニンジン又はトチバニンジン(人參)、オトギリソウ又はコゴメバオトギリソウ又はセイヨウオトギリソウ(弟切草)、オドリコソウ(続断)、オナモミ(蒼耳子)、オニグルミ、オニドコロ又はトコロ又はナガドコロ(ヒカイ)、オニノヤガラ(天麻)、オニユリ又はササユリ又はハカタユリ(百合)、オノニス、オヒョウ(裂葉楡)、オミナエシ(敗醬)、オユーコ、オランダカラシ(クレソン)、オランダゼリ、オランダミツバ、オリーブ「果実、種子、葉」、オレガノ、オレンジ「果実、果皮」、カイケイジオウ(熟地黄)、カキ(柿蒂「葉」)、カギカズラ(釣藤鈎)、カキドオシ又はカントリソウ(蓮銭草)、カシア、カジノキ(栲実「果実」)、ガジュツ(莪朮)、カシワ(榲桲、榲桲葉)、カスカリラ、カスカラサグラダ、カスミソウ、カニクサ(金沙藤)、カニワ、カノコソウ(吉草根)、カバノキ又はシダレカンバ(白樺)、カボチャ、カボックノキ「種子」、カホクサンショウ(蜀椒)、ガマ(蒲黄)、カミツレ又はローマカミツレ、カミヤツデ(通草)、カムカム(カモカモ)、カラクサケマン、カラスウリ又はシナカラスウリ(王瓜)、カラスビシャク(半夏)、カラスムギ、ガラナ「種子」、カラホオ(厚朴)、カラヤ、カリン(木瓜)、ガルシニア、カワミドリ、カワラサイコ(委陵菜、翻白草)、カワヂシャ、カワラタケ、カワラナデシコ(石竹)又はエゾカワラナデシコ(瞿麦、瞿麦子)、カワラニンジン(青蒿)、カワラヨモギ(茵陈蒿)、カンスイ(甘遂)、カンゾウ(甘草)、カンタラアサ、カンドリラ、カントウ、カンナ、キイチゴ(エゾイチゴ、オランダイチゴ、エビガライチゴ、ナワシロイチゴ、モミジイチゴ、ヨーロッパイチゴ)、キウイ「果実、葉」、キカラスウリ(瓜呂根)、キキョウ(桔梗、桔梗根)、キク(菊花)、シマカンギク、チョウセンノギク)、キササゲ(梓

実)、ギシギシ(羊蹄根)、キジツ(枳实)、キズタ、キダチアロエ、キダチハッカ、キナ、キナノキ(シンコーナ、アカキナノキ)、キヌア(キノア)、キハダ(黄柏)、ギムネマ・シルベスタ、キャベツ、キャベブ「未熟果」、キュウリ、ギョリュウ(西河柳、てい柳)、キラジャ・サボナリア、キラヤ、キランソウ(金瘡小草)、キンカン「果実」、キンマ、キンミズヒキ(仙鶴草)、グアバ「果実」、グアユーレ、ケルクス・インフェクトリア(没食子)、ククイナツツ、クコ(枸杞、枸杞子、枸杞葉、地骨皮)、クサスギカズラ(天門冬)、クズ(葛根)、クスノキ、グースベリー「果実」、クソニンジン(黄花蒿)、クチナシ(山梔子)、クヌギ(櫟ソウ)、クプアス、クマザサ、クマツヅラ(馬鞭草)、クララ(苦參)、クランベリー「果実」、クリ「種子、果実、渋皮」、クルクリゴ・ラチフォリア「果実」、グレープフルーツ「果実・葉」、クロウメモドキ、クロガネモチ(救必應)、クロバナヒキオコシ又はヒキオコシ(延命草)、クローブ(丁子、丁香)、グンバイナズナ(セキメイ、セキメイシ)、ケイガイ(荊芥、荊芥穗)、ケイトウ(鶏冠花、鶏冠子)、ゲッケイジュ(月桂樹)、ケナシサルトリイバラ(土茯苓、山歸來)、ゲンチアナ、ゲンノショウコ(老鶴草)、ケンボナシ(キグシ)、コウキセツコク、キシウミカン(コウジ、タチバナ、オオベニミカン、フクレミカン、サガミコウジ、ボンカン、サンタラ(橘皮))、コウシンバラ(月季花)、コウスイハッカ、コウゾ「果実」、コウチャ(紅茶)、コウホネ(川骨)、コウホン(藁本、唐藁本)、コウリヤン、コウリョウキョウ(高良姜)、コエンドロ「果実」、コオウレン(胡黃連)、コガネバナ(黄ゴ)、コケモモ(越橘)、ココヤシ「果実」、ゴシュユ(呉茱萸)、ゴシヨイチゴ(覆盆子)、コショウ(胡椒)、コパイバルサム、コーヒー「種子、葉」、コブシ又はモクレン(辛夷)、ゴボウ(牛蒡、牛蒡子)、コボタンヅル、ゴマ(胡麻)、ゴマノハグサ(玄參)、ゴミシ(五味子)、サネカズラ又はビナンカズラ又はマツサ、コムギ(小麦)、米又は米糠「赤糠、白糠」、コメ油、コーラ・アクミナタ「種子」、コーラ・ベラ「種子」、コロハ「果実」、コロombo、コンズランゴ、コンブ、コンニャク、コンフリー(鱈張草)、サイザル(サイザルアサ)、サキシマボタンヅル又はシナボタンヅル又はシナセンニンソウ(威靈仙)、サクラ(オオシマザクラ、ヤマザクラ、オオヤマザクラ、エドヒガシ、マメザクラ、ミヤマザクラ、ソメイヨシノ、タカネザクラ、カスミザクラ、チョウジザクラ、コヒガン、サトザクラ、カンザクラ「葉、花、果実、樹皮(桜皮)」)、サクランボ、ザクロ、ササ、サザンカ、サジオモダカ(沢瀉)、サツマイモ、サトウキビ、サトウダイコン、サネブトナツメ(酸棗仁)、サフラン(番紅花、西紅花)、ザボン「果実」、サボンソウ、サーモンベリー「果実」、サラシナショウマ(升麻)、サルビア(セージ)、サワギキョウ(山梗菜)、サワグルミ(山胡桃)、サングレデグラード(クロトン)、サンシクヨウソ

ウ、サンシチニンジン(三七人参)、サンシュユ(山菜
 黄)、サンショウ(山椒)、サンズコン(山豆根)、シア(カ
 リテ)、シアノキ「果実」、シイタケ(椎茸)、シオン(紫
 苑)、ジキタリス、シクンシ(使君子)、シソ又はアオジ
 ソ又はチリメンジソ又はカタメンジソ(紫蘇葉、紫蘇
 子)、シタン、シナノキ、シナホオノキ、シナレンギョ
 ウ(連翹)、シメジ(ヒンシメジ、シャカシメジ、ハタケ
 シメジ、オシロイシメジ、ブナシメジ、ホンジメシ、シ
 ロタモギタケ)、シモツケソウ、ジャガイモ、シャクヤ
 ク(芍薬)、シャジン(沙参)、ジャスミン(マツリカ)、
 ジャノヒゲ(麦門冬)、シュクコンカスミソウ、シュクシ
 ャミツ(砂仁、縮砂)、ジュズダマ、シュロ「果実」、シ
 ョウガ(生姜)、ジョウザンアジサイ(常山)、ショウブ
 (菖蒲、菖蒲根)、ショズク「果実」、シラカシ「種
 子」、シロゴチョウ「種子」、シロトウアズキ(鶏骨
 草)、シロバナイリス(ニオイイリス)、シロバナツタ
 「花」、シロミナンテン(南天実)、シンコナサクシルブ
 ラ、ジンチョウゲ(瑞香、瑞香花、沈丁花)、シンナモ
 ン、スイカ(西瓜)、スイカズラ(金銀花、忍冬)、スイバ
 (酸模)、スイムベリー「果実」、ステビア、ストロベリ
 ー「果実」、スズサイコ(徐長卿)、スギナ(間蒨)、スベ
 リヒユ(馬歯けん、馬歯けん子)、スモモ「果実」、セイ
 ヨウアカマツ「球果」、セイヨウカラマツ、セイヨウキ
 ズタ、セイヨウグルミ、セイヨウサンザシ、セイヨウタ
 ンポポ、セイヨウトチノキ(マロニエ)、セイヨウナシ
 「果実」、セイヨウナツユキソウ、セイヨウニワトコ
 (エルダー)、セイヨウネズ(ジュニパー、杜松)、セイヨ
 ウノゴギリソウ(ミルフォイル)、セイヨウバラ、セイヨ
 ウフウチョウボク、セイヨウヤドリギ、セイヨウハッカ
 又はセイヨウヤマハッカ、セイヨウワサビ、セキショウ
 (石菖根)、セッコク(石斛)、セドロン(ボウシュウボ
 ク)、ゼニアオイ、ヒロハセネガ、セネガ、セリ、セロ
 リ、センキュウ(川キュウ)、センシンレン(穿心連)、セ
 ンダン、センブリ(当薬)、センナ「果実、葉」、センニ
 ソウ(大蓼)、ソウカ(草果)、ソバ「種実」、ソメモノ
 イモ、ダイオウ(大黃)、大根、大豆、ダイダイ(橙皮、
 枳実)、タカサブロウ(旱蓮草)、タカトウダイ(大戟)、
 タカワラビ(狗脊)、ダークスイートチェリー「果実」、
 タチアオイ、タチジャコウソウ(タイム、百里香)、タチ
 ドコロ(ヒカイ)、タチヤナギ、タマリンド「種子」、タ
 マネギ、タムシバ(辛夷)、タラノキ「果実、葉、根
 皮」、タルウィ、タンジン(丹参)、タンポポ(蒲公英)又
 はシロバナタンポポ又はモウコタンポポ、ダンマル、チ
 ェリー「果実」、チガヤ「果実、根、芽」、チクセツニ
 ンジン(竹節人参)、チコリ、チャンカピエドラ(キダチ
 コミカンソウ)、チョウセンダイオウ(大黃)、チョウセ
 ンニレ(蕪夷)、チョウセンヨモギ(艾葉)、チョレイマイ
 タケ(猪苓)、チョロギ、ツキミソウ、ツクリタケ(マッ
 シュルーム)、ツバキ、ツボクサ、ツメクサ(漆姑草)、
 ツククサ(鴨跖草)、ツルアズキ(赤小豆)、ツルドクダミ

10

20

30

40

50

(何首烏)、ツルナ(蕃杏)、ツルニンジン(四葉参)、ツワ
 ブキ、デイコ、テウチグルミ、デュベリー「果実」、テ
 ングサ、テンチャ(甜茶)、テンダイウヤク(烏藥)、トウ
 ガ(冬瓜子)、トウカギカズラ、トウガラシ(番椒)、トウ
 キ(当歸)、トウキンセンカ(マリーゴールド)、トウナベ
 ナ(川断)、トウモロコシ又はトウモロコシ毛(南蛮毛)、
 トウネズミモチ(女貞子)、トウリンドウ又はチョウセン
 リンドウ(竜胆)、トクサ(木賊)、ドクダミ(十葉)、トコ
 ン(吐根)、トシシ又はマメダオシ又はネナシカズラ、ト
 チュウ(杜仲「樹皮、葉、根」)、トネリコ(秦皮)、トマ
 ト、トラガント、トリアカンソス「種子」、トルメンチ
 ラ、ドロノキ、トロロアオイ、ナイゼリアベリー「果
 実」、ナガイモ又はヤマノイモ(山藥)、ナギイカダ(ブ
 ッチャーブルーム)、ナギナタコウジュ、ナズナ、ナタ
 ネ、ナタメメ又はタテハキ(刀豆)、ナツミカン、ナツメ
 (大棗)、ナニワイバラ(金桜子)、ナベナ(続断)、ナメ
 コ、ナルコユリ(黄精)、ナンキンマメ(落花生)、ナンテ
 ン(南天実)、ナンバンカラムシ(苧麻)、ニガキ(苦木)、
 ニガヨモギ(苦艾)、ニクズク、ニラ(韭菜)、ニワトコ
 (接骨木「果実、花、茎、葉」)、ニンニク(大蒜)、ヌル
 デ(五倍子)、ネギ、ネムノキ又はネブ又はネビ又はネム
 リノキ又はジゴクバナ(合歡)、ノアザミ(大薊)、ノイバ
 ラ(當実)、ノゴギリソウ、ノダケ(前胡)、ノバラ、ノモ
 モ、パーム、パイナップル「果実」、ハイビスカス(ブ
 ヅソウゲ、フウリンブズソウゲ、ローゼル)、ハイリン
 ドウ、ハカマウラボシ(骨碎補)、ハクセン(白癬皮)、ハ
 クルベリー「果実」、ハコベ(繁縷)、ハシバミ(榛子)、
 ハシリドコロ(ロート根)、バジル、ハス(蓮、蓮肉、蓮
 子)、パセリ(オランダゼリ)、ハダカムギ、バタタ、ハ
 チク又はマダケ(竹茹)、パチョリー、ハッカ(薄荷、薄
 荷葉)、ハトムギ(ヨクイニン)、ハナスゲ(知母)、パナ
 ナ、ハナハッカ、ハナビシ(シツリシ、シシツリ)、パニ
 ラピンズ、パパイヤ、ハハコグサ(鼠麴草)、パハロボ
 ボ、ハブ「全草、茎、葉」、パブリカ、ハマゴウ又はミ
 ツバハマゴウ(蔓荊子)、ハマスゲ(香附子)、ハマビシ
 (シツリ子)、ハマナス(マイカイ花)、ハマボウフウ(浜
 防風)、ハママリス、バラ(薔薇)、ハラタケ(ハラタケ、
 シロオハラタケ、ウスキモリノカサ)、ハラン、パリ
 ウルス(セイヨウハマナツメ)、パリエタリア、バルサミ
 ーナ(ツルレイシ、ニガウリ)、ハルニレ(榆皮、榆白
 皮、榆葉)、ハルリンドウ、ハンダイカイ(胖大海)、パ
 ンノキ、ヒオウギ(射干)、ヒカゲツルニンジン(党参)、
 プーアル茶(普?茶)、ピーカンナツツ、ヒガンバナ(石
 蒜、蔓珠沙華)、ヒシ(菱実)、ピスタチオ、ピート、ヒ
 トツバ(石葦)、ヒトツバエニシダ、ヒナタイノコズチ
 (牛膝)、ヒノキ、ヒバ、ヒマシ、ヒマワリ、ピーマン、
 ヒメウズ(天葵)、ヒメガマ(香蒲)、ヒメマツタケ(カワ
 リハラタケ、ヒロマツタケ)、ピメンタ「果実」、ビャ
 クシ、ビャッキョウ、ヒユ「果実」、ピロウドアオイ、
 ヒロハオキナグサ(白頭翁)、ビワ「果実、葉、茎」、ビ

ンロウ(大服皮、檳榔子)、フウトウカズラ(南藤)、フキ、フキタンボボ(款冬花、款冬葉)、フジバカマ(蘭草)、フジマメ(扁豆)、ブドウ「果実、果皮、種子、葉」、ブナ、フコムシナツクサタケ(冬虫夏草)、ブラジルカンゾウ、ブラジルニンジン、ブラックカーラント「果実」、ブラックベリー、プラム「果実」、フルセリア、ブルーベリー(セイヨウヒメスノキ)、ブルー、ブロードサイリウム、ブンドウ(緑豆)、ヘーゼルナッツ、ヘチマ、ベニバナ(紅花)、ヘネケン、ペラドンナ、ベリー「果実」、ペルビアンバーダ、ベンケイソウ又はイキクサ(景天)、ボイセンベリー「果実」、ホウキギ又はニワクサ又はネンドウ又はハハキギ・コキア(地膚子)、ホウセンカ(鳳仙、急性子、透骨草)、ホウノキ、ボウフウ(防風)、ホウレンソウ、ホオズキ(登呂根)、ホオノキ(和厚朴、朴)、ボケ(木瓜)、ホソバナオケラ(蒼朮)、ホソバノキリンソウ(景天三七)、ホソババレンギク、ボダイジュ(菩提樹)、ボタン(牡丹「花、葉、茎、樹皮」)、ボタンピ(牡丹皮)、ホップ、ホホバ、ボルドー、ホワートルベリー「果実」、ホンオニク(肉じゅ蓉、大芸)、ホンセッコク(鉄皮石斛、雀山石斛)、マイズルテンナンショウ(天南星)、マイタケ(舞茸)、マオウ(麻黄)、マカ、マカデミアナッツ、マクリ(海人草)、マグワ(桑白皮「樹皮、葉」)、マグノリア・スプレングリ、マシュア(タマノウゼンハレン、キュウコンキンレンカ)、マタタビ(木天蓼)、マツカサ、松「葉、樹皮、根」、マツホド(茯苓)、マティコ(コルドンシージョ)、マヨラム(ハナハッカ)、マルバノジャジン(苦参)、マルベリー「果実」、マルメロ、マンゴー、マンゴスチン、マンサーニャ(アンデスカミツレ)、マンシュウゲルミ、マンダリン「果実」、マンネンタケ(靈芝)、キジツ(枳実「果実」)、ミシマサイコ(柴胡)、ミズオオバコ又はミズアサガオ(竜舌草)、ミゾカクシ(半辺蓮)、ミソハギ(千屈菜)、ミチヤナギ又はニワヤナギ(篇蓄)、ミツガシワ、ミツバ、ミドリハッカ、ミモザ、ミョウガ、ミラクルフルーツ「果実」、ミルラ、ミロバラン、ムギワラギク、ムクゲ(木槿)、ムクノキ、ムクロジ(延命皮)、ムニャ、ムラサキ(紫根)、ムラサキシキブ又はオオムラサキシキブ(紫珠)、ムラサキトウモロコシ、ムラサキナツフジ(昆明鵝血藤)、メハジキ(益母草)、メボウギ、メラロイカ、メリッサ、メリロート、メロン「果実」、モウコヨモギ、モウソウチク、モジェ(コショウボク)、モッコウ(木香)、モミジバダイオウ、モモ(桃「葉、種子、花、果実」)、モヤシ、モレロチェリー「果実」、モロヘイヤ(黄麻)、ヤカワムラサキイモ、ヤクチ(益智)、ヤグルマソウ(ヤグルマギク)、ヤグルマハッカ、ヤーコン、ヤシャブシ(矢車)又はヒメヤシャブシ又はオオバヤシャブシ「果実、果皮、果穂」、ヤチャナギ、ヤツデ(八角金盤)、ヤドリギ(柳寄生)、ヤナギ(カワヤナギ、タチャナギ、シダレヤナギ、アカメヤナギ、ネコヤナギ、イヌコリヤナギ、キヌヤナギ、コリヤナギ、ウンリ

ユウヤナギ、ミヤマヤナギ、ヤシ、ヤマヤナギ、オオバヤナギ、タイリクキヌヤナギ、キツネヤナギ、ドロノキ)、ヤナギタヅ「葉、茎」、ヤブガラシ、ヤブコウジ(紫金牛)、ヤブタバコ(鶴虱、天名精)、ヤマゴボウ(商陸)、ヤマハンノキ(山榛)、ヤマモモ(楊梅皮)、ヤマヨモギ、ユーカリ、ユキノシタ(虎耳草)、ユッカ又はフレビフォリア、ユズ「果実」、ユリ、ヨロイグサ、ヨモギ(艾葉)、ライガン(雷丸)、ライム「果実」、ライムギ、ラカンカ「果実」、ラズベリー「葉、果実」、ラタニア(クラメリア)、ラッキョウ又はエシャロット(薤白)、ラベンダー、リュウガン(竜眼肉)、リュウゼツラン(アオノリュウゼツラン、フクリンリュウゼツラン)、リョクチャ(緑茶)、リンゴ「果実、種子、葉、根」、リンドウ、ルバス又はスアビシムス(甜涼)、レイシ(荔枝、荔枝核)、レタス(チシャ)、レッドカーラント「果実」、レモン「果実」、レモングラス、レンギョウ又はシナレンギョウ(連翹)、レンゲソウ、ロウヤシ、ロコン(ヨシ、蘆根)、ローガンベリー「果実」、ローズマリー(マンネンロウ)、ローズヒップ(ノバラ)、ワサビ、ワレモコウ(地榆)などが挙げられる。

【0038】又、その他の海水類、例えば、海水塩、海水乾燥物、死海又は大西洋又は太平洋の海より得た無機塩(塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、塩化カリウムなど)、海泥又は泥(ファンゴ)類、例えば、イタリアファンゴ、ドイツファンゴ、アイフェルフアンゴ、フライブルグファンゴなどの各地の海泥又は泥(含有成分: 二酸化珪素、二酸化チタン、酸化アルミニウム、酸化鉄、酸化マンガン、酸化ナトリウム、酸化カリウム、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化ストロンチウム、ナトリウム、カリウム、マグネシウム、カルシウム、クロム、鉄、銅、ニッケル、亜鉛、鉛、マンガン、ヒ素、水)、聖徳石など。

【0039】海藻類としては、海藻[緑藻類: クロレラ・ブルガリス、クロレラ・ピレノイドサ、クロレラ・エリプソイデア、アオノリ(ウスバアオノリ、スジアオノリ、ヒラアオノリ、ボウアオノリ、ホソエダアオノリ)]、海藻[褐藻類: コンブ(マコンブ、リシリコンブ、ホソメコンブ、ミツイシコンブ)、ワカメ、ヒロメ、アオワカメ、ジャイアントケルプ(マクロシスティス・ピリフェラ、マクロシスティス・インテグリフォリア、ネオシスティス・ルエトケアーナ)、ヒジキ、ヒバマタ]、海藻[紅藻類: ヒジリメン、マクサ(テングサ)、ヒラクサ、オニクサ、オバクサ、カタオバクサ、ヤタバグサ、ユイキリ、シマテングサ、トサカノリ、トゲキリンサイ、アマクサキリンサイ、キリンサイ、ビャクシンキリンサイ、ツノマタ、オオバツノマタ、トチャカ(ヤハズツノマタ)、エゾツノマタ、トゲツノマタ、ヒラコトジ、コトジツノマタ、スギノリ、シキンノリ、カイノリ、イボツノマタ、ヤレウスバノリ、カギウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、アカモミジノリ]な

どが代表的なものとして挙げられる。

【0040】又、その他の藻類、例えば、緑藻類（クラミドモナス属：クラミドモナス、アカユキモ、ドウナリエラ属：ドウナリエラ、クロロコッカス属：クロロコッカス、クワノミモ属：クワノミモ、ボルボックス属：オオヒゲマワリ、ボルボックス、パルメラ属、ヨツメモ属、アオミドロ属：ヒザオリ、アオミドロ、ツルギミドロ属、ヒビミドロ属：ヒビミドロ、アオサ属：アナアオサ、アミアオサ、ナガアオサ、カワノリ属：カワノリ、フリッチエラ属、シオグサ属：オオシオグサ、アサミドリシオグサ、カワシオグサ、マリモ、パロニア属：タマゴパロニア、タマパロニア、マガタマモ属：マガタマモ、イワツタ属：フサイワツタ、スリコギツタ、ヘライワツタ、クロギツタ、ハネモ属、ミル属：ミル、クロミル、サキブチミル、ナガミル、ヒラミル、カサノリ属：カサノリ、ジュズモ属：フトジュズモ、タマジズモ、ミゾジュズモ、ミカヅキモ属、コレカエテ属、ツヅミモ属、キッコウグサ属：キッコウグサ、ヒトエグサ属：ヒトエグサ、ヒロハノヒトエグサ、ウスヒトエグサ、モツキヒトエ、サヤミドロ属、クンショウモ属、スミレモ属：スミレモ、ホシミドロ属、フシナシミドロ属など）。

【0041】藍藻類（スイゼンジノリ属：スイゼンジノリ、アオコ属、ネンジュモ属：カワタケ、インクラゲ、ハッサイ、ユレモ属、ラセンモ（スピリナ）属：スピリナ、トリコデスミウム（アイアカシオ）属など）。

【0042】褐藻類（ピラエラ属：ピラエラ、シオミドロ属：ナガミシオミドロ、イソブドウ属：イソブドウ、イソガワラ属：イソガワラ、クロガシラ属：ゲンセンクロガシラ、カシラザキ属：カシラザキ、ムチモ属：ムチモ、ヒラムチモ、ケベリグサ、アミジグサ属：アミジグサ、サキピロアミジ、サナダグサ属：サナダグサ、フクリンアミジ、コモングサ属：コモングサ、ヤハズグサ属：エゾヤハズ、ヤハズグサ、ウラボシヤハズ、ジガミグサ属：ジガミグサ、ウミウチワ属：ウミウチワ、コナウミウチワ、アカバウミウチワ、ナミマクラ属：ヒルナミマクラ、ソメワケグサ属：ソメワケグサ、ナバリモ属：ナバリモ、チャソウメン属：モツキチャソウメン、マツモ属：マツモ、ナガマツモ属：ナガマツモ、オキナワモズク属：オキナワモズク、ニセフトモズク属：ニセフトモズク、フトモズク属：フトモズク、イシモズク属：イシモズク、クロモ属：クロモ、ニセモズク属：ニセモズク、モズク属：モズク、イシゲ属：イシゲ、イロロ、イチメガサ属：イチメガサ、ケヤリ属：ケヤリ、ウミボッス属：ウミボッス、ウルシグサ属：ウルシグサ、ケウルシグサ、タバコグサ、コンブモドキ属：コンブモドキ、ハバモドキ属：ハバモドキ、ハバノリ属：ハバノリ、セイヨウハバノリ属：セイヨウハバノリ、コモンブクロ属：コモンブクロ、エゾブクロ属：エゾブクロ、フクロノリ属：フクロノリ、ワタモ、チシマフクロノリ

属：チシマフクロノリ、カゴメノリ属：カゴメノリ、ムラリドリ属：ムラチドリ、サメズグサ属：サメズグサ、イワヒゲ属：イワヒゲ、ヨコジマノリ属：ヨコジマノリ、カヤモノリ属：カヤモノリ、ウイキョウモ属：ウイキョウモ、ツルモ属：ツルモ、アナメ属：アナメ、スジメ属：スジメ、ミスジコンブ属：ミスジコンブ、アツバミスジコンブ、コンブ属：ガツガラコンブ、カキジマコンブ、オニコンブ、ゴヘイコンブ、ナガコンブ、エンドウコンブ、オオチヂミコンブ、トロロコンブ属：トロロコンブ、アントクメ属：アントクメ、カジメ属：カジメ、ツルアラメ、クロメ、キクイシコンブ属：キクイシコンブ、ネジレコンブ属：ネジレコンブ、クロシオメ属：クロシオメ、ネコアシコンブ属：ネコアシコンブ、アラメ属：アラメ、アイヌワカメ属：アイヌワカメ、チガイソ、オニワカメエゾイシゲ属：エゾイシゲ、ヤバネモク属：ヤバネモク、ラッパモク属：ラッパモク、ジョロモク属：ウガノモク、ジョロモク、ヒエモク、ホンダワラ属：タマナシモク、イソモク、ナガシマモク、アカモク、シダモク、ホンダワラ、ネジモク、ナラサモ、マメタワラ、タツクリ、ヤツマタモク、ウミトラノオ、オオバモク、フシズシモク、ハハキモク、トゲモク、ヨレモク、ノコギリモク、オオバノコギリモク、スギモク属：スギモク、ウキモ属：オオウキモ、ブルウキモ属：ブルウキモ、カヤモノリ属：カヤモノリなど）。

【0043】紅藻類（ウシケノリ属：ウシケノリ、フノリウシケ、アマノリ属：アサクサノリ、スサビノリ、ウップルイノリ、オニアマノリ、タサ、フイリタサ、ベニタサ、ロドコルトン属：ミルノベニ、アケボノモズク属：アケボノモズク、コナハダ属：ハイコナハダ、ヨゴレコナハダ、アオコナハダ、ウミゾウメン属：ウミゾウメン、ツクモノリ、カモガシラノリ、ベニモズク属：ベニモズク、ホソベニモズク、カサマツ属：カサマツ、フサノリ属：フサノリ、ニセフサノリ属：ニセフサノリ、ソデガラミ属：ソデガラミ、ガラガラ属：ガラガラ、ヒラガラガラ、ヒロハタマイタダキ属：ヒロハタマイタダキ、タマイタダキ属：タマイタダキ、カギケノリ属：カギノリ、カギケノリ、テングサ属：ヒメテングサ、ハイテングサ、オオブサ、ナンブグサ、コヒラ、ヨヒラ、キヌクサ、ヒビロウド属：ヒビロウド、ヒメヒビロウド、イソムメモドキ属：イソムメモドキ、ミチガエソウ属：ミチガエソウ、リュウモンソウ属：リュウモンソウ、ヘラリュウモン、ニセカレキグサ属：ニセカレキグサ、オキツバラ属：オオバオキツバラ、アカバ属：アカバ、マルバアカバ、ナミノハナ属：ホソバナミノハナ、ナミノハナ、サンゴモドキ属：ガラガラモドキ、シオグサゴロモ属：シオグサゴロモ、イワノカワ属：エツキイワノカワ、カイノカワ属：カイノカワ、カニノテ属：カニノテ、サンゴモ属：サンゴモ、ムカデノリ属：ムカデノリ、スジムカデ、カタノリ、ヒラムカデ、キョウノヒモ、サクラノリ、ニクムカデ、タンバノリ、ツルツル、

イソノハナ属：ヌラクサ、クロヌラクサ、オオムカデノ
 リ、ヒラキントキ属：ヒラキントキ、マタボウ属：マタ
 ボウ、キントキ属：チャボキントキ、キントキ、マツノ
 リ、コメノリ、トサカマツ、ヒトツマツ、カクレイト
 属：オオバキントキ、イトフノリ属：イトフノリ、ナガ
 オバネ属：ナガオバネ、フノリ属：ハナフノリ、フクロ
 フノリ、マフノリ、カレキグサ属：カレキグサ、トサカ
 モドキ属：ホソバノトサカモドキ、ヒロハノトサカモド
 キ、ヤツデガタトサカモドキ、クロトサカモドキ、ネザ
 シノトサカモドキ、キヌハダ属：キヌハダ、エゾトサカ
 属：エゾトサカ、ツカサノリ属：エナシカリメニア、オ
 オツカサノリ、ハナガタカリメニア、ホウノオ属：ホウ
 ノオ、ヒカゲノイト属：ヒカゲノイト、ウスギヌ、ニク
 ホウノオ属：ニクホウノオ、ベニスナゴ属：ベニスナ
 ゴ、ススカケベニ属：ススカケベニ、オカムラグサ属：
 ヤマダグサ、ミリン属：ミリン、ホソバミリン、トサカ
 ノリ属：キクトサカ、エゾナメシ属：エゾナメシ、イソ
 モッカ属：イソモッカ、ユカリ属：ユカリ、ホソユカ
 リ、イバラノリ属：イバラノリ、サイダイバラ、タチイ
 バラ、カギイバラノリ、キジノオ属：キジノオ、イソダ
 ンツウ属：イソダンツウ、アツバノリ属：アツバノリ、
 オゴノリ属：オゴノリ、ツルシラモ、シラモ、オオオゴ
 ノリ、ミゾオコノリ、カバノリ、テングサモドキ属：ハ
 チジョウテングサモドキ、フシクレノリ属：フシクレノ
 リ、ナミイワタケ属：ナミイワタケ、カイメンソウ属：
 カイメンソウ、オキツノリ属：オキツノリ、サイミ属：
 イタニグサ、サイミ、ハリガネ、ハスジグサ属：ハスジ
 グサ、スギノリ属：イカノアシ、ホソイボノリ、ノボノ
 リ、クロハギンナンソウ属：クロハギンナンソウ、アカ
 バギンナンソウ属：アカバギンナンソウ、ヒシブクロ
 属：ヒシブクロ、マダラグサ属：トゲマダラ、エツキマ
 ダラ、タオヤギソウ属：タオヤギソウ、ハナサクラ、フ
 クロツナギ属：フクロツナギ、スジコノリ、ハナノエダ
 属：ハナノエダ、ヒラタオヤギ属：ヒラタオヤギ、ダル
 ス属：ダルス、マサゴシバリ、アナダルス、ウエバグサ
 属：ウエバグサ、ベニフクロノリ属：ベニフクロノリ、
 フシツナギ属：フシツナギ、ヒメフシツナギ、ヒロハフ
 シツナギ、ワツナギソウ属：ヒラワツナギソウ、ウスバ
 ワツナギソウ、イギス属：イギス、ケイギス、ハリイギ
 ス、ハネイギス、アミクサ、エゴノリ属：エゴノリ、フ
 トイギス、サエダ属：サエダ、チリモミジ属：チリモミ
 ジ、コノハノリ科：ハブタエノリ、コノハノリ、スズシ
 ロノリ、ウスベニ属：ウスベニ、ハスジギヌ属：ハスジ
 ギヌ、ナガコノハノリ属：ナガコノハノリ、スジギヌ
 属：スジギヌ、アツバスジギヌ、ハイウスバノリ属：カ
 ギウスバノリ、ヤレウスバノリ、スジウスバノリ、ハイ
 ウスバノリ、ウスバノリモドキ属：ウスバノリモドキ、
 アヤニシキ属：アヤニシキ、アヤギヌ属：アヤギヌ、ダ
 ジア属：エナシダジア、シマダジア属：イソハギ、シマ
 ダジア、ダジモドキ属：ダジモドキ、イトグサ属：モ

ロイトグサ、フトイグサ、マクリ属：マクリ、ヤナギノ
 リ属：ハナヤナギ、ユナ、ヤナギノリ、モツレユナ、ベ
 ニヤナギコリ、モサヤナギ、ササバヤナギノリ、ソゾ
 属：クロソゾ、コブソゾ、ハネソゾ、ソゾノハナ、ハネ
 グサ属：ハネグサ、ケハネグサ、コザネモ属：コザネ
 モ、イソムラサキ、ホソコザネモ、ヒメゴケ属：ヒメゴ
 ケ、クロヒメゴケ、ヒオドシグ属：キクヒオドシ、ヒオ
 ドシグサ、ウスバヒオドシ、アイソメグサ属：アイソメ
 グサ、スジナシグサ属：スジナシグサ、イソバショウ
 属：イソバショウ、フジマツモ属：フジマツモ、ノコギ
 リヒバ属：ハケサキノコギリヒバ、カワモズク属：カワ
 モズク、アオカワモズク、ヒメカワモズク、イデユコゴ
 メ属：イデユコゴメ、オキチモズク属：オキチモズク、
 イトグサ属、チノリモ属：チノリモ、チスジノリ属：チ
 スジノリなど。

【0044】車軸藻類（シャジクモ属、シラタマモ属、
 ホシツリモ属：ホシツリモ、リクノタムヌス属、フラス
 コモ属：ヒメフラスコモ、チャボフラスコモ、トリペラ
 属など）、黄色藻類（ヒカリモ属：ヒカリモなど）な
 ど。

【0045】又、動物系原料由来の素材としては、鶏冠
 抽出物、牛又は人の胎盤抽出物、豚又は牛の胃や十二指
 腸或いは腸の抽出物若しくはその分解物、豚又は牛の脾
 臓の抽出物若しくはその分解物、豚又は牛の脳組織の抽
 出物、水溶性コラーゲン、アシル化コラーゲン等のコラ
 ーゲン誘導体、コラーゲン加水分解物、エラスチン、エ
 ラスチン加水分解物、水溶性エラスチン誘導体、ケラチ
 ン及びその分解物又はそれらの誘導体、シルク蛋白及び
 その分解物又はそれらの誘導体、豚又は牛血球蛋白分解
 物（グロビンペプチド）、豚又は牛ヘモグロビン分解物
 （ヘミン、ヘマチン、ヘム、プロトヘム、ヘム鉄等）、
 牛乳、カゼイン及びその分解物又はそれらの誘導体、脱
 脂粉乳及びその分解物又はそれらの誘導体、ラクトフェ
 リン又はその分解物、鶏卵成分、魚肉分解物など。

【0046】(14)微生物培養代謝物

酵母代謝物、酵母菌抽出エキス、納豆菌代謝物、納豆抽
 出エキス、米発酵エキス、米糠発酵エキス、ユーグレナ
 抽出物、生乳又は脱脂粉乳の乳酸発酵物やトレハロース
 又はその誘導体など。

【0047】(15)α-ヒドロキシ酸類

グリコール酸、クエン酸、リンゴ酸、酒石酸、乳酸な
 ど。

【0048】(16)無機顔料

無水ケイ酸、ケイ酸マグネシウム、タルク、カオリン、
 ベントナイト、マイカ、雲母チタン、オキシ塩化ビスマ
 ス、酸化ジルコニウム、酸化マグネシウム、酸化亜鉛、
 酸化チタン、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、黄酸
 化鉄、ベンガラ、黒酸化鉄、ゲンジョウ、酸化クロム、
 水酸化クロム、カーボンブラック、カラミンなど。

【0049】(17)紫外線吸収／遮断剤

ベンゾフェノン誘導体(2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン-スルホン酸ナトリウム、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、テトラヒドロキシベンゾフェノンなど)、p-アミノ安息香酸誘導体(パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラアミノ安息香酸グリセリル、パラジメチルアミノ安息香酸アミル、パラジメチルアミノ安息香酸オクチルなど)、メトキシ桂皮酸誘導体(パラメトキシ桂皮酸エチル、パラメトキシ桂皮酸イソプロピル、パラメトキシ桂皮酸オクチル、パラメトキシ桂皮酸2-エトキシエチル、パラメトキシ桂皮酸ナトリウム、パラメトキシ桂皮酸カリウム、ジパラメトキシ桂皮酸モノ-2-エチルヘキサノ酸グリセリルなど)、サリチル酸誘導体(サリチル酸オクチル、サリチルフェニル、サリチル酸ホモメンチル、サリチル酸ジプロピレングリコール、サリチル酸エチレングリコール、サリチル酸ミリスチル、サリチル酸メチルなど)、アントラニル酸誘導体(アントラニル酸メチルなど)、ウロカニン酸誘導体(ウロカニン酸、ウロカニン酸エチルなど)、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサソリン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンB6誘導体、ウンベリフェロン、エスクリン、桂皮酸ベンジル、シノキサート、オキシベンゾン、ジオキシベンゾン、オクタベンゾン、スリソベンゾン、ベンゾレソルシノール、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、ネオヘリオパン、エスカロール、酸化亜鉛、タルク、カオリンなど。

【0050】(18)美白剤

p-アミノ安息香酸誘導体、サルチル酸誘導体、アントラニル酸誘導体、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサソリン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンC又はその誘導体(ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシドなど)、ビタミンE又はその誘導体、コウジ酸又はその誘導体、オキシベンゾン、ベンゾフェノン、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、胎盤エキス、エラグ酸、ルシノールなど。

【0051】(19)チロシナーゼ活性阻害剤

ビタミンC又はその誘導体(ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシドなど)、ハイドロキノン又はその誘導体(ハイドロキノンベンジルエー

テルなど)、コウジ酸又はその誘導体、ビタミンE又はその誘導体、N-アセチルチロシン又はその誘導体、グルタチオン、過酸化水素、過酸化亜鉛、胎盤エキス、エラグ酸、アルブチン、ルシノール、シルク抽出物、植物エキス(カミツレ、クワ、トウキ、ワレモコウ、クララ、ヨモギ、スイカズラ、キハダ、ドクダミ、マツホド、ハトムギ、オドリコソウ、ホップ、サンザシ、ユウカリ、セイヨウノコギリソウ、アルテア、マンケイシ、ハマメリス、ヤマグワ、延命草、桔梗、トシシ、続随子、射干、麻黄、センキュウ、ドクカツ、サイコ、ボウフウ、ハマボウフウ、オウゴン、牡丹皮、シャクヤク、ゲンノショウコ、葛根、甘草、五倍子、アロエ、ショウマ、紅花、緑茶、紅茶、阿仙薬)など。

【0052】(20)メラニン色素還元/分解物質

フェニル水銀ヘキサクロロフェン、酸化第二水銀、塩化第一水銀、過酸化水素水、過酸化亜鉛、ハイドロキノン又はその誘導体(ハイドロキノンベンジルエーテル)など。

【0053】(21)ターンオーバーの促進作用/細胞賦活物質

ハイドロキノン、乳酸菌エキス、胎盤エキス、霊芝エキス、ビタミンA、ビタミンE、アラントイン、脾臓エキス、胸腺エキス、酵母エキス、発酵乳エキス、植物エキス(アロエ、オウゴン、スギナ、ゲンチアナ、ゴボウ、シコン、ニンジン、ハマメリス、ホップ、ヨクイニン、オドリコソウ、センブリ、トウキ、トウキンセンカ、アマチャ、オトギリソウ、キュウリ、タチジャコウソウ、ローズマリー、パセリ)など。

【0054】(22)収斂剤

コハク酸、アラントイン、塩化亜鉛、硫酸亜鉛、酸化亜鉛、カラミン、p-フェノールスルホン酸亜鉛、硫酸アルミニウムカリウム、レゾルシン、塩化第二鉄、タンニン酸(カテキン化合物を含む)など。

【0055】(23)活性酸素消去剤

SOD、カタラーゼ、グルタチオンパーオキシダーゼなど。

【0056】(24)抗酸化剤

ビタミンC又はその塩、ステアリン酸エステル、ビタミンE又はその誘導体、ノルジヒドログアセレン酸、ブチルヒドロキシトルエン(BHT)、ブチルヒドロキシアニソール(BHA)、ヒドロキシチロソール、パラヒドロキシアニソール、没食子酸プロピル、セサモール、セサモリン、ゴシボールなど。

【0057】(25)過酸化脂質生成抑制剤

β -カロチン、植物エキス(ゴマ培養細胞、アマチャ、オトギリソウ、ハマメリス、チョウジ、メリッサ、エンメイソウ、シラカバ、セージ、ローズマリー、南天実、エイジツ、イチョウ、緑茶)など。

【0058】(26)抗炎症剤

イクタモール、インドメタシン、カオリン、サリチル

酸、サリチル酸ナトリウム、サリチル酸メチル、アセチルサリチル酸、塩酸ジフェニヒドラミン、d-カンフル、dl-カンフル、ヒドロコルチゾン、グアイアズレン、カマズレン、マレイン酸クロルフェニラミン、グリチルリチン酸又はその塩、グリチルレチン酸又はその塩、甘草エキス、シコンエキス、エイジツエキスなど。

【0059】(27)抗菌・殺菌・消毒薬

アクリノール、イオウ、グルコン酸カルシウム、グルコン酸クロルヘキシジン、スルファミン、マーキョロクロム、ラクトフェリン又はその加水分解物、塩化アルキルジアミノエチルグリシン液、トリクロサン、次亜塩素酸ナトリウム、クロラミンT、サラシ粉、ヨウ素化合物、ヨードホルム、ソルビン酸又はその塩、サルチル酸、デヒドロ酢酸、パラヒドロキシ安息香酸エステル類、ウンデシレン酸、チアミンラウリル硫酸塩、チアミンラウリル硝酸塩、フェノール、クレゾール、p-クロロフェノール、p-クロロ-m-キシレノール、p-クロロ-m-クレゾール、チモール、フェネチルアルコール、o-フェニルフェノール、イルガサンCH3565、ハロカルバン、ヘキサクロロフェン、クロロヘキシジン、エタノール、メタノール、イソプロピルアルコール、ベンジルアルコール、エチレングリコール、プロピレングリコール、フェノキシエタノール、クロロブタノール、イソプロピルメチルフェノール、非イオン界面活性剤（ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテルなど）、両性界面活性剤、アニオン界面活性剤（ラウリル硫酸ナトリウム、ラウロイルサルコシンカリウムなど）、カチオン界面活性剤（臭化セチルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、塩化メチルロザニリン）、ホルムアルデヒド、ヘキサミン、ブリリアントグリーン、マラカイトグリーン、クリスタルバイオレット、ジャーマル、感光素101号、感光素201号、感光素401号、N-長鎖アシル塩基性アミノ酸誘導体及びその酸附加塩、酸化亜鉛、ヒノキチオール、クジンなど。

【0060】(28)保湿剤

グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ヒアルロン酸又はその塩、ポリエチレングリコール、コンドロイチン硫酸又はその塩、水溶性キチン或いはキトサン誘導体、ピロリドンカルボン酸又はその塩、乳酸ナトリウム、ミニササニシキエキス、納豆菌代謝物、納豆抽出エキスなど。

【0061】(29)エラストマーゼ活性阻害剤

フロオロリン酸ジイソプロピル、植物エキス（オウゴン、オトギリソウ、クララ、桑の葉、ゲンノショウコ、コンフリー、セージ、セイヨウニワトコ、ボダイジュ、ボタンビ）、海藻エキスなど。

【0062】(30)頭髮用剤

二硫化セレン、臭化アルキルイソキノリニウム液、ジン

クビリチオン、ビフェナミン、チアントール、カスターリチンキ、ショウキョウチンキ、トウガラシチンキ、塩酸キニーネ、強アンモニア水、臭素酸カリウム、臭素酸ナトリウム、チオグリコール酸など。

【0063】(31)抗アンドロゲン剤

卵胞ホルモン（エストロン、エストラジオール、エチニルエストラジオールなど）、イソフラボン、オキシンドロンなど。

【0064】(32)末梢血管血流促進剤

ビタミンE又はその誘導体、センブリエキス、ニンニクエキス、人参エキス、アロエエキス、ゲンチアナエキス、トウキエキス、セファランチン、塩化カルプロニウム、ミノキシジルなど。

【0065】(33)局所刺激剤

トウガラシチンキ、ノニル酸バニルアミド、カンタリスチンキ、ショウキョウチンキ、ハッカ油、l-メントール、カンフル、ニコチン酸ベンジルなど。

【0066】(34)代謝活性化剤

感光素301号、ヒノキチオール、パントテン酸又はその誘導体、アラントイン、胎盤エキス、ピオチン、ペンタデカン酸グリセリドなど。

【0067】(35)抗脂漏剤

ピリドキシン又はその誘導体、イオウ、ビタミンB6など。

【0068】(36)角質溶解剤

レゾルシン、サリチル酸、乳酸など。

【0069】(37)酸化剤

過酸化水素水、過硫酸ナトリウム、過硫酸アンモニウム、過ホウ酸ナトリウム、過酸化尿素、過炭酸ナトリウム、過酸化トリポリリン酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、臭素酸カリウム、過酸化ピロリン酸ナトリウム、過酸化オルソリン酸ナトリウム、ケイ酸ナトリウム過酸化水素付加体、硫酸ナトリウム塩化ナトリウム過酸化水素付加体、β-チロシナーゼ酵素液、マッシュルーム抽出液など。

【0070】(38)除毛剤

硫酸ストロンチウム、硫化ナトリウム、硫化バリウム、硫化カルシウムなどの無機系還元剤、チオグリコール酸又はその塩類（チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸ナトリウム、チオグリコール酸リチウム、チオグリコール酸マグネシウム、チオグリコール酸ストロンチウム）など。

【0071】(39)毛髪膨潤剤

エタノールアミン、尿素、グアニジンなど。

【0072】(40)染料剤

5-アミノオルトクレゾール、2-アミノ-4-ニトロフェノール、2-アミノ-5-ニトロフェノール、1-アミノ-4-メチルアミノアントラキノン、3,3'-イミノジフェノール、塩酸2,4-ジアミノフェノキシエタノール、塩酸2,4-ジアミノフェノール、塩酸トルエン-2,5-ジアミン、塩酸ニ

トロパラフェニレンジアミン、塩酸パラフェニレンジアミン、塩酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、塩酸メタフェニレンジアミン、オルトアミノフェノール、酢酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、1,4-ジアミノアントラキノ、2,6-ジアミノピリジン、1,5-ジヒドロキシナフタレン、トルエン-2,5-ジアミン、トルエン-3,4-ジアミン、ニトロパラフェニレンジアミン、パラアミノフェノール、パラニトロオルトフェニレンジアミン、パラフェニレンジアミン、パラメチルアミノフェノール、ピクラミン酸、ピクラミン酸ナトリウム、N,N'-ビス(4-アミノフェニル)-2,5-ジアミノ-1,4-キノンジイミン、5-(2-ヒドロキシエチルアミノ)-2-メチルフェノール、N-フェニルパラフェニレンジアミン、メタアミノフェノール、メタフェニレンジアミン、硫酸5-アミノオルトクレゾール、硫酸2-アミノ-5-ニトロフェノール、硫酸オルトアミノフェノール、硫酸オルトクロルパラフェニレンジアミン、硫酸4,4'-ジアミノジフェニルアミン、硫酸2,4-ジアミノフェノール、硫酸トルエン-2,5-ジアミン、硫酸ニトロパラフェニレンジアミン、硫酸パラアミノフェノール、硫酸パラニトロオルトフェニレンジアミン、硫酸パラニトロメタフェニレンジアミン、硫酸パラフェニレンジアミン、硫酸パラメチルアミノフェノール、硫酸メタアミノフェノール、硫酸メタフェニレンジアミン、カテコール、ジフェニルアミン、 α -ナフトール、ヒドロキノン、ピロガロール、フロログルシン、没食子酸、レゾルシン、タンニン酸、2-ヒドロキシ-5-ニトロ-2',4'-ジアミノアゾベンゼン-5'-スルホン酸ナトリウム、ヘマテインなど。

【0073】(41)香料

ジャコウ、シベット、カストリウム、アンバーgrisなどの天然動物性香料、アニス精油、アンゲリカ精油、イランイラン精油、イリス精油、ウイキョウ精油、オレンジ精油、カンガ精油、カラウエー精油、カルダモン精油、グアヤクウッド精油、クミン精油、黒文字精油、ケイ皮精油、シンナモン精油、ゲラニウム精油、コパイバルサム精油、コリアンデル精油、シソ精油、シダーウッド精油、シトロネラ精油、ジャスミン精油、ジンジャーグラス精油、杉精油、スペアミント精油、西洋ハッカ精油、大茴香精油、チュベローズ精油、丁字精油、橙花精油、冬緑精油、トルバルサム精油、バチュリー精油、バラ精油、パルマローザ精油、桧精油、ヒバ精油、白檀精油、プチグレン精油、ベイ精油、ベチバ精油、ベルガモット精油、ペルーバルサム精油、ボアドローズ精油、芳樟精油、マンダリン精油、ユーカリ精油、ライム精油、ラベンダー精油、リナロエ精油、レモングラス精油、レモン精油、ローズマリー精油、和種ハッカ精油などの植物性香料、その他合成香料など。

【0074】(42)色素・着色剤

赤キャベツ色素、赤米色素、アカネ色素、アナトー色素、イカスミ色素、ウコン色素、エンジュ色素、オキア

ミ色素、柿色素、カラメル、金、銀、クチナシ色素、コーン色素、タマネギ色素、タマリンド色素、スピルリナ色素、ソバ全草色素、チェリー色素、海苔色素、ハイビスカス色素、ブドウ果汁色素、マリーゴールド色素、紫イモ色素、紫ヤマイモ色素、ラック色素、ルチンなど。

【0075】その他、保湿剤、ホルモン類、金属イオン封鎖剤、pH調整剤、キレート剤、防腐・防バイ剤、清涼剤、安定化剤、乳化剤、動・植物性蛋白質及びその分解物、動・植物性多糖類及びその分解物、動・植物性糖蛋白質及びその分解物、血流促進剤、消炎剤・抗アレルギー剤、細胞賦活剤、角質溶解剤、創傷治療剤、増泡剤、増粘剤、口腔用剤、消臭・脱臭剤、苦味料、調味料、酵素などが上げられ、これらとの併用によって、相加的及び相乗的な各種の効果が期待できる。

【0076】又、本発明の抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧品組成物の剤型は任意であり、カプセル、粉末、顆粒、固形、液体、ゲル、気泡、乳液、クリーム、軟膏、シートなどの形態で配合して用いることができる。

【0077】具体的には、例えば、外用薬用製剤、化粧水、乳液、クリーム、軟膏、ローション、オイル、パックなどの基礎化粧品、洗顔料や皮膚洗浄料、除毛剤、脱毛剤、アフターシェーブローション、プレシェーブローション、シェービングクリーム、シャンプー、リンス、ヘアトリートメント、整髪料、パーマ剤、ヘアートニック、染毛料、育毛・養毛料などの頭髮化粧品、ファンデーション、口紅、頬紅、アイシャドウ、アイライナー、マスカラなどのメイクアップ化粧品、香水類、浴用剤、その他、歯磨き類、口中清涼剤・含嗽剤、消臭剤、防臭剤、衛生綿類、ウェットティッシュなど様々な製品に応用でき、又、一般的な飲食品への使用もできる。

【0078】尚、本発明の抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧品組成物への添加の方法については、予め加えておいても、製造途中で添加しても良く、作業性を考えて適宜選択すれば良い。

【0079】

【実施例】以下に、試験例、処方例を挙げて説明するが、本発明はこれらに制約されるものではない。

【0080】(製造例1) カカオ、ケイヒ、チンピの各植物乾燥物100gをそれぞれ50%エタノール溶液1Lに浸漬し、室温にて3昼夜抽出した後、濾過して抽出液(乾燥固形分：カカオ0.5~2.5重量%、ケイヒ0.8~2.4重量%、チンピ1.5~3.2重量%)を約1.0~3.0kg得る。

【0081】(製造例2) カカオ、ケイヒ、チンピの乾燥物100gを30%プロピレングリコール溶液及び30%1,3-ブチレングリコール溶液の等量混液1Lにて50℃で6時間緩やかに加温抽出し、吸引ろ過して抽出液(乾燥固形分：カカオ0.5~2.5重量%、ケイヒ0.8~2.4重量%、チ

ンピ1.5~3.0重量%)を約1.0~3.0kg得る。

【0082】(製造例3)カカオ、ケイヒ、チンピの各植物乾燥物100gをそれぞれを精製水(約80℃)1Lに浸漬し、約5時間加温抽出し、濾過して抽出液(乾燥固形分:カカオ0.5~2.0重量%、ケイヒ0.8~2.6重量%、チンピ1.5~3.0重量%)を約1.0~3.0kg得る。

【0083】(製造例4)カカオ、ケイヒ、チンピの各植物乾燥物100gをそれぞれ100gを精製水(常温)にて約5時間加温抽出し、濾過して抽出液(乾燥固形分:カカオ0.5~2.0重量%、ケイヒ0.8~2.5重量%、チンピ1.5~3.0重量%)を約1.0~3.0kg得る。

【0084】(試験1)ヒスタミン遊離抑制試験
I型アレルギー反応では、第2段階において感作された肥満細胞あるいは好塩基球からヒスタミンなどの化学伝達物質が遊離する。従って、ヒスタミン遊離を抑制するような物質は抗アレルギー作用が期待できる。本試験ではラットの肥満細胞からヒスタミン遊離試薬であるcompound48/80でヒスタミンを遊離させる試験法(J.Soc.Cosmet.Japan, Vol.25, No.4, P.246 (1992))を用い、製造例1で得られた抽出液について検討した。

【0085】「試験方法及び評価方法」

a. 試料

抽出液は減圧下で溶媒を留去後、精製水にて固形分濃度を0.5重量%となるように再溶解し、試験に供した。尚、比較対照として同濃度のグリチルリチン酸ジカリウム(キシダ化学製)を用いた。

b. 遊離ヒスタミン量の測定

ラット(S1c: Wister系雄性ラット、約4~9週齢)の腹腔内から採取した肥満細胞浮遊液1.2mLに、試料0.2mLとcompound48/80を最終濃度1 μ g/mLとなるように加え、37℃で15分間インキュベートした。氷冷して反応停止後、反応液を遠心分離し、上澄から遊離したヒスタミンを抽出、精製し、 α -フタルジアルデヒドにて発色させ、励起波長360nm、蛍光波長450nmにおける蛍光吸光度を測定し、次式(数1)によりヒスタミン遊離抑制率を求め、結果は図1に示した。

【0086】〈数1〉

$$\text{ヒスタミン遊離抑制率(\%)} = \{1 - (A - C) / B - C\} \times 100$$

A: 肥満細胞に試料を共存させてヒスタミン遊離剤を加えたときに遊離したヒスタミンの蛍光強度

B: 肥満細胞にヒスタミン遊離剤を加えたときに遊離したヒスタミンの蛍光強度

C: 肥満細胞から自然に遊離されるヒスタミンの蛍光強度(A, B, Cは測定値から盲検値を引いたものである。)

【0087】(試験結果)図1の通り、本発明のカカオ、ケイヒ及びチンピ抽出物は、グリチルリチン酸ジカリウムに比べ、非常に優れたヒスタミン遊離抑制作用を有することが確認され、抗アレルギー剤として使用でき

る。

【0088】(試験2)アラキドン酸耳浮腫抑制試験
I型アレルギー反応においては、IgE抗体と抗原の反応により、細胞膜のリン脂質が破壊されてアラキドン酸が遊離し、各種酵素の作用を受けて化学伝達物質の1つであるプロスタグランジン、SRS-Aに代謝され、その結果、各種のアレルギー症状を発現する。従って、このアラキドン酸の代謝活性を抑制する作用を有する物質は抗アレルギー剤としての利用が期待できる。本試験では、製造例1で得られた抽出液を含有する親水軟膏を処方し、新納らの方法(「3,4-Dihydroxychalcone類のマウスアラキドン酸耳浮腫に対する作用」:日本薬学会第113年会)を参照して、その検討を行った。

【0089】「試験方法及び評価方法」

a. 試料

抽出液は減圧下で溶媒を留去して濃縮後、固形分濃度に換算して10.0重量%になる量を含有する親水性軟膏剤を常法により製造、使用した。尚、陽性対照としてはグリチルリチン酸ジカリウム(キシダ化学製)を配合した軟膏剤を使用した。

b. 浮腫腫脹率の測定

上記の軟膏剤をあらかじめアラキドン酸塗布の約3,2,1時間前に計3回、マウス(S1c: ICR系雌性マウス、約6週齢)右側耳介に丹念に擦り込むように塗布した。アラキドン酸塗布直前に耳介に付着している軟膏を拭き取り、アセトンに溶解した5重量%アラキドン酸(SIGMA製)20 μ Lを塗布し、1時間後耳介をパンチ切除(5.0mm)した。同様に左側耳介も切除を行い、左右耳介の重量差よりアラキドン酸耳浮腫腫脹率を測定した。判定はブランクとして基剤のみを塗布した対照群の耳浮腫腫脹率と比較して耳浮腫抑制率を算出した。尚、各試験系にはマウスを8~9匹使用し、結果は表1に示した。

【0090】

〈表1〉

濃度(%)	アラキドン酸耳浮腫抑制率(%)			
	カカオ抽出物	ケイヒ抽出物	チンピ抽出物	グリチルリチン酸ジカリウム
10.0	58.7	14.3	33.5	51.4

【0091】(試験結果)表1の通り、本発明のカカオ、チンピ抽出物は、グリチルリチン酸ジカリウムとほぼ同等の優れた耳浮腫抑制作用を有し、又、ケイヒ抽出物についても若干ではあるが、耳浮腫抑制作用を示し、アラキドン酸代謝活性抑制作用を有することが確認された。

【0092】(試験3)接触皮膚炎抑制試験
接触皮膚炎反応においては、抗原によって感作されたT

リンパ球は、再び同一抗原に接触すると、マクロファージやリンパ球を活性化させる種々のリンホカインを放出し、炎症反応を引き起こす。従って、同一抗原に対して起こる一連の炎症反応を抑制するような物質は遅延型

(IV型)アレルギー剤としての利用が期待できる。本試験では、製造例1で得られた抽出液を含有する親水ワセリン軟膏を処方し、中村の方法(日薬理誌, 76, 595 (1980))に準じて、パラフェニレンジアミン誘発接触皮膚炎反応に対する、その作用の検討を行った。

【0093】「試験方法及び評価方法」

a. 試料

抽出液は減圧下で溶媒を留去して濃縮後、固形分換算して10.0重量%となる量を含有する親水ワセリン軟膏を常法により製造、使用した。尚、陽性対照としてはグリチルリチン酸ジカリウム(キシダ化学製)を配合した軟膏剤を使用した。

b. 浮腫腫脹率の測定

まず、マウス(BALB/c雌性マウス:約8週齢)の剪毛腹部皮膚に2.5%パラフェニレンジアミン/アセトン:オリブ油=4:1(以下、PPD)を0.1mLを3日間連続塗布して感作を行い、5日後被験薬物20mgを1時間間隔で3回片側耳介に塗布した。最終塗布1時間後に、被験薬物を十分拭き取り、その耳介にPPDを20 μ Lを塗布し惹起した。惹起17時間後再び被験薬物を1時間間隔で2回惹起した耳介に塗布し、次に惹起19時間後に被験薬物を十分拭き取り、惹起24時間後に両側耳介をパンチにて一定面積(直径5.0mm)取り、その重量を測定した。判定は未処理の片側耳介の重量の差より腫脹率を測定し、対照群と比較し皮膚炎の抑制率を算出した。尚、試験にはマウスを8~9匹使用し、結果は表2に示した。

【0094】

(表2)

濃度(%)	接触皮膚炎抑制率(%)			
	カカオ抽出物	ケイヒ抽出物	チンピ抽出物	グリチルリチン酸ジカリウム
10.0	20.0	12.8	15.8	35.9

【0095】(試験結果)表2の通り、本発明のカカオ、ケイヒ及びチンピ抽出物は、陽性対照のグリチルリチン酸ジカリウムの抑制率より若干弱い接触皮膚炎抑*
(処方例1) 乳液

1. スクワラン
2. ホホバ油
3. セチルアルコール
4. グリセリンモノステアレート
5. ポリオキシエチレン(20)セチルエーテル

* 制作用を有することが確認された。

【0096】(試験4) 安全性試験

(1) 皮膚一次刺激性試験

製造例1~4で得られた抽出液を固形分濃度が約2.0重量%になるように調製し、これを背部を剪毛したハートレー系モルモット(雌性, 1群3匹, 体重300~350g)の皮膚の2 \times 2cm²の四角当たり0.03mLずつ塗布した。判定は、適用後24, 48, 72時間に一次刺激性の評点法により紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果、全ての動物において、何等、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判定された。

【0097】(試験5) 安全性試験

(2) 皮膚累積刺激性試験

製造例1~4で得られた抽出液を固形分濃度が約2.0重量%となるように調製し、これを側腹部を剪毛(2 \times 4cm²)したハートレー系モルモット(雌性, 1群3匹, 体重320g前後)の皮膚に1日1回、週5回、0.5mL/動物当たりを塗布した。塗布は2週にわたって、又、剪毛は各週の最終塗布日に行った。判定は、各塗布日及び最終塗布日の翌日に一次刺激性の評点法により紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果、全ての動物において、塗布後2週間にわたって、何等、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判断された。

【0098】(試験6) 安全性試験

(3) 単回投与毒性試験

製造例1~4で得られた各種植物抽出粉末を12.5%濃度になるよう精製水にて調整し、一匹につき16mL/kg量を、試験前、16時間絶食させたddy系マウス(雄性及び雌性, 1群5匹, 5週齢)に経口にてゾンドを以て投与し、毒性症状の発現、程度などを経時的に観察した。その結果、全てのマウスにおいて14日間、何等異常を認めず、解剖の結果も異常がなかった。よって、LD50は2,000mg/kg以上であり、安全な物質と判断した。

【0099】(処方例) 抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧品組成物の製造

上記の評価結果に従い、以下にその処方例を示すが、各処方例は各製品の製造における常法により製造したもので良く、配合量のみを示した。又、本発明はこれらに限定されるわけではない。

【0100】

重量%

- 8.0
- 7.0
- 1.5
- 2.0
- 3.0

6. ポリオキシエチレン(20)ソオルピタンモノオレート	2.0
7. 1,3-ブチレングリコール	1.0
8. グリセリン	2.0
9. A: 製造例1のカカオ抽出液	
B: 製造例1のケイヒ抽出液	
C: 製造例1のチンピ抽出液	
※ A~Cの何れか1種の抽出液	5.0
10. 防腐剤 (パラオキシ安息香酸エステル)	適量
11. 精製水	100とする残余

【0101】

10

(処方例2) 化粧用オイル

	重量%
1. 流動パラフィン	30.0
2. スクワラン	20.0
3. オリーブ油	20.0
4. パルミチン酸イソプロピル	10.0
5. 製造例3のチンピ抽出液	1.0
6. チンピ熱水抽出エキス	1.0
7. サルビア熱水抽出エキス	1.0
8. ブチルヒドロキシアニソール	0.1
9. 防腐剤 (塩化ベンザルコニウム)	適量
10. 香料 (ウイキョウ水)	適量
11. 精製水	100とする残余

【0102】

(処方例3) 柔軟性化粧水

	重量%
1. グリセリン	5.0
2. 1,3-ブチレングリコール	5.0
3. モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルピタン(20E.0)	1.0
4. エタノール	15.0
5. ケイヒ50%エタノール抽出液	2.0
6. チンピ50%エタノール抽出液	1.0
7. モロヘイヤ50%エタノール抽出液	1.0
8. 抗菌・防腐剤 (チアミンラウリル硫酸塩)	適量
9. 香料 (ウイキョウ水)	適量
10. 精製水	100とする残余

【0103】

(処方例4) 収れん化粧水

	重量%
1. ソルビット	2.0
2. POE(20)オレイルアルコール	1.0
3. エタノール	15.0
4. チンピ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
5. カカオ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
6. 緑茶50%エタノール抽出液	1.0
7. ハマメリス50%エタノール抽出液	1.0
8. アラントイン	0.2
9. 収れん剤 (スルホ石炭酸亜鉛)	0.2
10. 抗菌・防腐剤 (チアミンラウリル硫酸塩)	適量
11. 香料 (ラベンダー水)	適量

12.精製水

100とする残余

【0104】

(処方例5) 2層式化粧水(液~液型)

	重量%
1.スクワラン	8.0
2.POEソルビタンテトラオレイン酸エステル	0.3
3.ソルビット	1.0
4.エタノール	15.0
5.製造例2のチンピ抽出液	2.0
6.細辛30%エタノール抽出液	1.0
7.ゲンノショウコ30%エタノール抽出液	1.0
8.アスコルビン酸	0.2
9.収れん剤(スルホ石炭酸ソーダ)	0.2
10.防腐剤(フェノキシエタノール)	適量
11.香料(ボダイジュ水)	適量
12.精製水	100とする残余

【0105】

(処方例6) カーマインローション(液~固型)

	重量%
1.グリセリン	3.0
2.1,3-ブチレングリコール	5.0
3.エタノール	15.0
4.酸化鉄(ベンガラ)	0.2
5.酸化亜鉛	0.5
6.カオリン	2.0
7.カカオ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
8.グレープフルーツ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
9.桃葉50%プロピレングリコール抽出液	2.0
10.プラセンタエキス	1.0
11.カンファー	0.2
12.フェノール	0.03
13.防腐剤(感光素201号)	適量
14.香料(トウキ水)	適量
15.精製水	100とする残余

【0106】

(処方例7) パック

	重量%
1.ポリビニルアルコール	15.0
2.カルボキシメチルセルロースナトリウム	5.0
3.プロピレングリコール	3.0
4.エタノール	10.0
5.製造例3のカカオ抽出液	1.0
6.ユキノシタ50%エタノール抽出液	1.0
7.サボンソウ50%エタノール抽出液	1.0
8.防腐剤(パラオキシ安息香酸エステル)	適量
9.香料(セージ水)	適量
10.精製水	100とする残余

【0107】

(処方例8) ピールオフパック

重量%

1.グリセリン	5.0
2.プロピレングリコール	4.0
3.ポリビニルアルコール	15.0
4.エタノール	8.0
5.ポリオキシエチレングリコール	1.0
6.パントテニルエチルエーテル	1.0
7.ジャスミン精油	3.0
8.チンピ50%エタノール抽出液	1.0
9.海藻(ヒバマタ)50%エタノール抽出液	1.0
10.防腐剤(パラオキシ安息香酸エステル)	適量
11.香料(トウキ水)	適量
12.精製水	100とする残余

【0108】

(処方例9) コールドクリーム

	重量%
1.サラシミツロウ	11.0
2.流動パラフィン	22.0
3.ラノリン	10.0
4.オリーブ油	15.0
5.ホウ砂	0.5
6.カカオ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0
7.チンピ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
8.液状シア脂	1.0
9.西洋スモモ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
10.防腐剤(アクリノール)	0.1
11.香料(セージ水)	適量
12.精製水	100とする残余

【0109】

(処方例10) エモリエントクリーム

	重量%
1.ステアリン酸	2.0
2.ステアリルアルコール	7.0
3.還元ラノリン	2.0
4.スクワラン	5.0
5.オクチルドデカノール	6.0
6.ポリオキシエチレンセチルエーテル(25E.O.)	3.0
7.親油性モノステアリン酸グリセリン	2.0
8.プロピレングリコール	5.0
9.チンピ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
10.フィキタンポ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
11.メリッサ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
12.防腐剤(パラベン)	適量
13.香料(トウキ水)	適量
14.精製水	100とする残余

【0110】

(処方例11) 洗顔クリーム

	重量%
1.ミリスチン酸	25.0
2.ステアリン酸	5.0
3.牛脂脂肪酸	5.0

4. プロピレングリコール	10.0
5. 水酸化カリウム	6.0
6. ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	6.0
7. ケイヒ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
8. シイタケ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
9. 松50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
10. グリチルレチン酸ジカリウム	1.0
11. ローヤルゼリーエキス	0.1
12. 防腐剤 (サルチル酸)	0.1
13. 香料 (セージ水)	適量
14. 精製水	100とする残余

【0111】

(処方例12) 洗顔クリーム

	重量%
1. ステアリン酸	10.0
2. パルミチン酸	10.0
3. ミリスチン酸	12.0
4. ラウリン酸	4.0
5. オレイルアルコール	1.5
6. ラノリン誘導体 (E.O.付加物)	1.0
7. グリセリン	18.0
8. 水酸化カリウム	6.0
9. 製造例4のカカオ、ケイヒ又はチンピ抽出液	1.0
10. グリチルリレチン酸	1.0
11. 防腐剤 (サルチル酸)	0.1
12. 香料 (トウキ水)	適量
13. 精製水	100とする残余

【0112】

(処方例13) ボディーソープ

	重量%
1. ラウリン酸カリウム	15.0
2. ミリスチン酸カリウム	5.0
3. プロピレングリコール	5.0
4. カカオ60%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
5. ケイヒ60%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
6. シナノキ30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
7. トルメンチラ30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
8. オドリコソウ30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
9. ポリエチレン末	0.5
10. 納豆菌代謝物	0.5
11. アミノ酸 (グリシン、グルタミンなど)	0.5
12. 防腐剤 (ウンデシレン酸、フェノール)	適量
13. pH調整剤	適量
14. 香料 (ブドウ水)	適量
15. 精製水	100とする残余

【0113】

(処方例14) サンスクリーン化粧品 (O/W型)

	重量%
1. オキシベンゾン	2.0
2. パラメトキシケイ皮酸オクチル	5.0

37

38

3.スクワラン	10.0
4.ワセリン	5.0
5.ステアリルアルコール	3.0
6.ステアリン酸	3.0
7.グリセリルモノステアレート	2.0
8.ポリアクリル酸エチル	1.0
9.1,3-ブチレングリコール	6.0
10.エデト酸二ナトリウム	0.1
11.トリエタノールアミン99%	1.0
12.二酸化チタン	5.0
13.カカオ30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
14.シラカバ50%エタノール抽出液	0.5
15.紅花50%エタノール抽出液	0.5
16.防腐剤 (パラベン)	適量
17.香料 (アップル水)	適量
18.精製水	100とする残余

【0114】

(処方例15) サンスクリーン化粧品 (オイルタイプ)

	重量%
1.流動パラフィン	70.0
2.パラミノ安息香酸エチル	1.0
3.テトラヒドロキシベンゾフェノン	1.0
4.セチルオクタノエート	25.0
5.ケイヒ30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
6.チンピ30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
7.ヤグルマギク30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
8.レンゲソウ50%エタノール抽出液	0.5
9.酸化防止剤 (ブチルヒドロキシトルエン)	適量
10.香料 (トウキ水)	適量

【0115】

30

(処方例16) クリームファンデーション (O/W型)

	重量%
1.ステアリン酸	4.0
2.モノステアリン酸グリセリン	3.0
3.セタノール	1.5
4.ミリスチン酸イソプロピル	7.0
5.流動パラフィン	10.0
6.サラシミツロウ	3.0
7.トリエタノールアミン	1.5
8.グリセリン	3.0
9.ベントナイト	1.0
10.酸化チタン	8.0
11.カオリン	3.0
12.タルク	3.0
13.着色顔料	1.0
14.製造例1のカカオ抽出液の乾燥粉末	0.1
15.紅花熱水抽出粉末	0.5
16.防腐剤 (パラベン)	適量
17.香料 (ラベンダー水)	適量
18.精製水	100とする残余

【0116】

(処方例17) シャンプー

	重量%
1. ラウリル硫酸トリエタノールアミン	5.0
2. ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ナトリウム	12.0
3. 1,3-ブチレングリコール	4.0
4. ラウリン酸ジエタノールアミド	2.0
5. エデト酸二ナトリウム	0.1
6. カカオ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
7. チンピ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
8. ローズマリー30%エタノール抽出液	1.0
9. コラーゲン加水分解物	1.0
10. 抗菌・防腐剤 (チアミンラウリル硫酸塩)	適量
11. pH調整剤	適量
12. 香料 (ハマメリス水)	適量
13. 精製水	100とする残余

【0117】

(処方例18) リンス

	重量%
1. 塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	2.0
2. セトステアリルアルコール	2.0
3. ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0
4. プロピレングリコール	5.0
5. ケイヒ50%エタノール抽出液	1.0
6. アロエ50%エタノール抽出液	1.0
7. ハンゲ50%エタノール抽出液	1.0
8. シャクヤク50%エタノール抽出液	1.0
9. トレハロース溶液	1.0
10. 加水分解シルク溶液	1.0
11. 牡丹皮50%エタノール抽出液	0.5
12. 抗菌・防腐剤 (塩化ベンザルコニウム)	適量
13. 香料 (ボダイジュ水)	適量
14. 精製水	100とする残余

【0118】

(処方例19) リンス

	重量%
1. 塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	2.0
2. セトステアリルアルコール	2.0
3. ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0
4. プロピレングリコール	5.0
5. ウヤク50%エタノール抽出液	1.0
6. ケイヒ50%エタノール抽出液	1.0
7. シャクヤク50%エタノール抽出液	1.0
8. トレハロース溶液	1.0
9. 加水分解シルク溶液	1.0
10. 抗菌・防腐剤 (塩化ベンザルコニウム)	適量
11. 香料 (カミツレ水)	適量
12. 精製水	100とする残余

【0119】

(処方例20) ヘアーリキッド

重量%

1. エタノール	29.0
2. ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸	10.0
3. ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル	5.0
4. トリエタノールアミン	1.0
5. ウヤク熱水抽出液	1.0
6. コウボク50%熱水抽出液	1.0
7. チンピ50%熱水抽出液	1.0
8. 塩化カルプロニウム	0.3
9. ヒノキチオール	0.5
10. ケラチン分解溶液	1.0
11. 抗菌・防腐剤（パラベン、塩化ベンザルコニウム）	適量
12. 香料（リンゴ水）	適量
13. 精製水	100とする残余

【0120】

(処方例21) ヘアーリキッド

重量%

1. エタノール	29.0
2. ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸	10.0
3. ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル	5.0
4. トリエタノールアミン	1.0
5. カカオ50%エタノール抽出液	1.0
6. バリエタリア50%エタノール抽出液	1.0
7. トウニン50%エタノール抽出液	1.0
8. 海藻（ヒジリメン、コンブ）50%エタノール抽出液	1.0
9. ケラチン分解溶液	1.0
10. 抗菌・防腐剤（パラベン、塩化ベンザルコニウム）	適量
11. 香料（カミツレ水）	適量
12. 精製水	100とする残余

【0121】

30

(処方例22) ヘアートニック

重量%

1. エタノール	40.0
2. オレイン酸エチル	1.0
3. ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油	2.0
4. A: 製造例1のカカオ抽出液	
B: 製造例1のケイヒ抽出液	
C: 製造例1のチンピ抽出液	
※A~Cの何れか1種の抽出液	5.0
5. 防腐剤（パラベン）	適量
6. 精製水	100とする残余

【0122】

(処方例23) ヘアートニック

重量%

1. 1-メントール	0.2
2. エタノール	32.5
3. ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	0.5
4. プロピレングリコール	5.0
5. 塩酸ジフェンヒドラミン	0.3
6. カカオ50%メタノール抽出液	2.0

(23)

特開2001-81037

43

44

7.ヒアルロン酸ナトリウム溶液	1.0
8.カルボキシメチルキチン溶液	1.0
9.ホエイ溶液	1.0
10.抗菌・防腐剤（パラベン）	0.1
11.香料（ローズ水）	適量
12.精製水	100とする残余

【0123】

(処方例24) 育毛・養毛剤

	重量%
1.エタノール	60.0
2.カカオ50%プロピレングリコール抽出液	5.0
3.チンピ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
4.ボダンピ70%プロピレングリコール抽出液	2.0
5.ビタミンE誘導体	0.5
6.トウガラシチンキ	0.5
7.レゾルシン	0.5
8.グリチルリチン酸	0.5
9.ヒドロキシプロピルキトサン溶液	0.5
10.牛ヘマチン液	0.5
11.チンピ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
12.シラカバ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
13.アミノ酸（グリシン、グルタミンなど）	0.5
14.抗菌・防腐剤（パラベン）	0.1
15.香料（ローズマリー）	適量
16.精製水	100とする残余

【0124】

(処方例25) 育毛・養毛剤

	重量%
1.エタノール	60.0
2.チンピ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	5.0
3.コウボク50%1,3-ブチレングリコール抽出液	5.0
4.サクラ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	5.0
5.カンタリスチンキ	0.5
6.パントテン酸誘導体	0.5
7.レゾルシン	0.5
8.グリチルリチン酸	0.5
9.サリチル酸	0.5
10.ヒドロキシエチルキトサン溶液	0.5
11.エラスチン加水分解液	0.5
12.レンゲソウ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
13.大豆50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
14.エラスチン加水分解液	0.5
15.抗菌・防腐剤（パラベン）	0.1
16.香料（ラベンダー）	適量
17.精製水	100とする残余

【0125】

(処方例26) 顆粒浴用剤

	重量%
1.炭酸水素ナトリウム	58.0
2.無水硫酸ナトリウム	30.0

3. ホウ砂	3.0
4. A：製造例1のカカオ抽出液乾燥粉末	
B：製造例1のケイヒ抽出液乾燥粉末	
C：製造例1のチンピ抽出液乾燥粉末	
※A～Cの何れか1種の抽出液	10.0
5. 色素（ゲンジョウピンク）	適量

【0126】

(処方例27) 顆粒浴用剤

	重量%
1. 炭酸水素ナトリウム	58.0
2. 無水硫酸ナトリウム	30.0
3. ホウ砂	3.0
4. ケイヒ70%エタノール抽出粉末	1.0
5. オドリコソウ70%エタノール抽出粉末	1.0
6. カミツレ70%エタノール抽出粉末	1.0
7. 桑白皮70%エタノール抽出粉末	1.0
8. ノバラ70%エタノール抽出粉末	1.0
9. オレンジ果汁粉末	1.0
10. 色素（黄酸化鉄）	適量
11. 香料（ハマメリス水	適量

【0127】(処方例28) 被覆保護剤

ガーゼ又はリニメント布にチンピ30%エタノール抽出液、抗生物質・抗炎症など適量を混合した処方液を含浸させ、外傷部に添付する。又、チンピ30%エタノール抽出液を直接、局所に散布し、ガーゼなどで被覆しても良い。

【0128】(試験7) 使用効果試験

本発明の化粧料組成物を実際に使用した場合の効果について検討を行った。使用テストは湿疹、肌のカユミ、肌荒れやアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患で悩む2～30歳の10名をパネラーとし、毎日、朝と夜の2回、洗顔後に処方例1の乳液の適量を顔面に3ヶ月に渡って塗布することにより行った。又、頭皮や髪の生え際に同様の皮膚疾患が見られる10名（2～10歳）についても、毎日の洗髪後、処方例22のヘアートニックの適量を頭皮に3ヶ月に渡って塗布することにより使用テストを実施した。

【0129】更に、処方例26の浴用剤についても、湿疹、肌のカユミ、肌荒れやアトピー性皮膚炎などの皮膚

疾患で悩む0～45歳の20名を対象に、3ヶ月間、必ず1日1回適量の浴用剤を溶解させた浴湯に入浴してもらい、使用テストを実施した。対照には、乳液、ヘアートニックから本発明のカカオ、ケイヒ、チンピ抽出物を除き、精製水に変えたものを同様な方法にて処方したものをを用いた。又、浴用剤については本発明のカカオ、ケイヒ、チンピ抽出物の乾燥粉末の代わりに無水硫酸ナトリウムで補正し、同様の方法にて処方したものをを用いた。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は表3の通りで表中の数値は人数を表す。尚、使用期間中に皮膚又は頭皮の異常を訴えた者はなかった。

【0130】「皮膚（頭皮）疾患改善効果」

有 効：湿疹、肌のカユミ、肌荒れやアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患が改善された。

やや有効：湿疹、肌のカユミ、肌荒れやアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患がやや改善された。

無 効：使用前と変化なし。

【0131】〈表3〉

剤 型	試料	有 効	やや有効	無 効
乳 液	カカオ抽出物	4	6	0
	ケイヒ抽出物	3	6	1
	チンピ抽出物	2	8	0
	対照品	0	1	9
ヘアートニック	カカオ抽出物	4	5	1
	ケイヒ抽出物	4	5	1
	チンピ抽出物	1	8	1
	対照品	0	0	10
浴用剤	カカオ抽出物	9	10	1
	ケイヒ抽出物	6	12	2
	チンピ抽出物	3	14	3
	対照品	1	1	18

【0132】（試験結果）表3の通り、本発明のカカオ、ケイヒ、チンピ抽出物を含有した化粧料組成物（乳液、ヘアートニック、浴用剤）の使用は、湿疹、かゆみ、肌荒れやアトピー性皮膚炎などの皮膚・頭皮疾患に対して、良好な効果が確認された。

【0133】

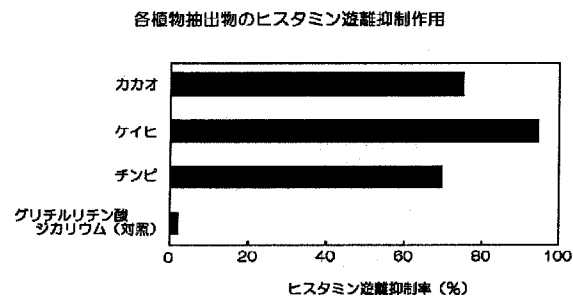
【発明の効果】本発明のカカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物は、ヒスタミン遊離抑制作用、アラキドン酸代謝活性抑制作用、接触皮膚炎抑制作用を有し、人又は動物に対して外用しても安全なものである。従って、抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性剤、接触皮膚炎抑制剤として

使用でき、あらゆる形態の製剤（医薬品類、医薬部外品類、化粧品類）への応用も可能である。又、本発明の化粧料組成物は、アレルギー性・接触性の皮膚炎症疾患（例えば、発赤、湿疹、浮腫、腫脹など）や、アトピー性皮膚炎、肌荒れといったトラブルを有する皮膚・頭皮に対して、その予防及び改善を目的として使用することができ、その他、口腔用組成物や食品への利用展開も可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のカカオ、ケイヒ及びチンピ抽出物のヒスタミン遊離抑制作用を示す図である。

【図1】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I

ターマコード (参考)

A 6 1 P 17/00
// A 6 1 K 7/06
7/075
7/08
7/42
7/50

A 6 1 P 17/00
A 6 1 K 7/06
7/075
7/08
7/42
7/50

F ターム(参考) 4C083 AA032 AA072 AA082 AA111
AA112 AA122 AB032 AB212
AB232 AB242 AB272 AB312
AB352 AB432 AB442 AC012
AC022 AC072 AC082 AC092
AC102 AC122 AC132 AC172
AC182 AC242 AC252 AC352
AC402 AC422 AC432 AC442
AC472 AC482 AC532 AC542
AC552 AC582 AC642 AC682
AC692 AC782 AC792 AC812
AC852 AC862 AC902 AD022
AD092 AD112 AD202 AD272
AD322 AD332 AD412 AD432
AD442 AD452 AD512 AD532
AD552 AD662 CC03 CC04
CC05 CC06 CC07 CC12 CC22
CC23 CC25 CC32 CC37 CC38
CC39 DD16 DD23 DD27 DD31
DD32 DD33 EE13 EE21 EE22
EE41
4C088 AB12 AB33 AB62 AC04 AC06
AC11 BA08 BA09 BA10 MA07
MA63 NA15 ZA89 ZB11 ZB13
ZC13 ZC21